

2020 年度 休眠預金活用事業

**中核的フードバンクによる地域包括支援体制  
事後評価報告書**

2024 年3月

公益財団法人パブリックリソース財団

## 目次

<b>1.はじめに</b>	<b>2</b>
<b>2.報告書要約</b>	<b>4</b>
<b>3.基本情報</b>	<b>5</b>
3-1. 団体概要	
3-2. 事業概要	
<b>4.包括的支援プログラム概要</b>	<b>12</b>
<b>5.事後評価実施概要</b>	<b>12</b>
5-1. 実施概要	
5-2. 実施体制	
<b>6.事業の実績</b>	<b>17</b>
6-1. インプット	
6-2. 活動とアウトプットの実績(非資金的支援)	
6-3. 活動とアウトプットの実績(資金支援)	
6-4. 外部との連携の実績	
<b>7.アウトカムの分析</b>	<b>24</b>
7-1. アウトカムの達成度(非資金的支援)	
7-2. アウトカムの達成度(資金支援)	
7-3. 波及効果	
7-4. 事業の効率性	
<b>8.成功要因・課題</b>	<b>50</b>
<b>9.その他、深堀検証項目</b>	<b>52</b>
<b>10.結論</b>	<b>53</b>
10-1. 社会的インパクト評価の構成要素別自己評価	
10-2. 自己評価の判断根拠について	
<b>11.提言</b>	<b>55</b>
<b>12.知見・教訓</b>	<b>56</b>
<b>13.資料</b>	<b>57</b>
1)企業を対象にした調査(アンケート票)	
2)支援団体を対象にした調査(アンケート票)	
3)中核的フードバンク(実行団体)を対象にした調査(アンケート票)	
4)利用者を対象にした調査(アンケート票)	
5)コンソーシアム成果報告会参加者を対象にした調査(アンケート票)	
6)中核的フーバンクアセスメントシート	
7)中核的フードバンク伴走支援計画	

## I. はじめに

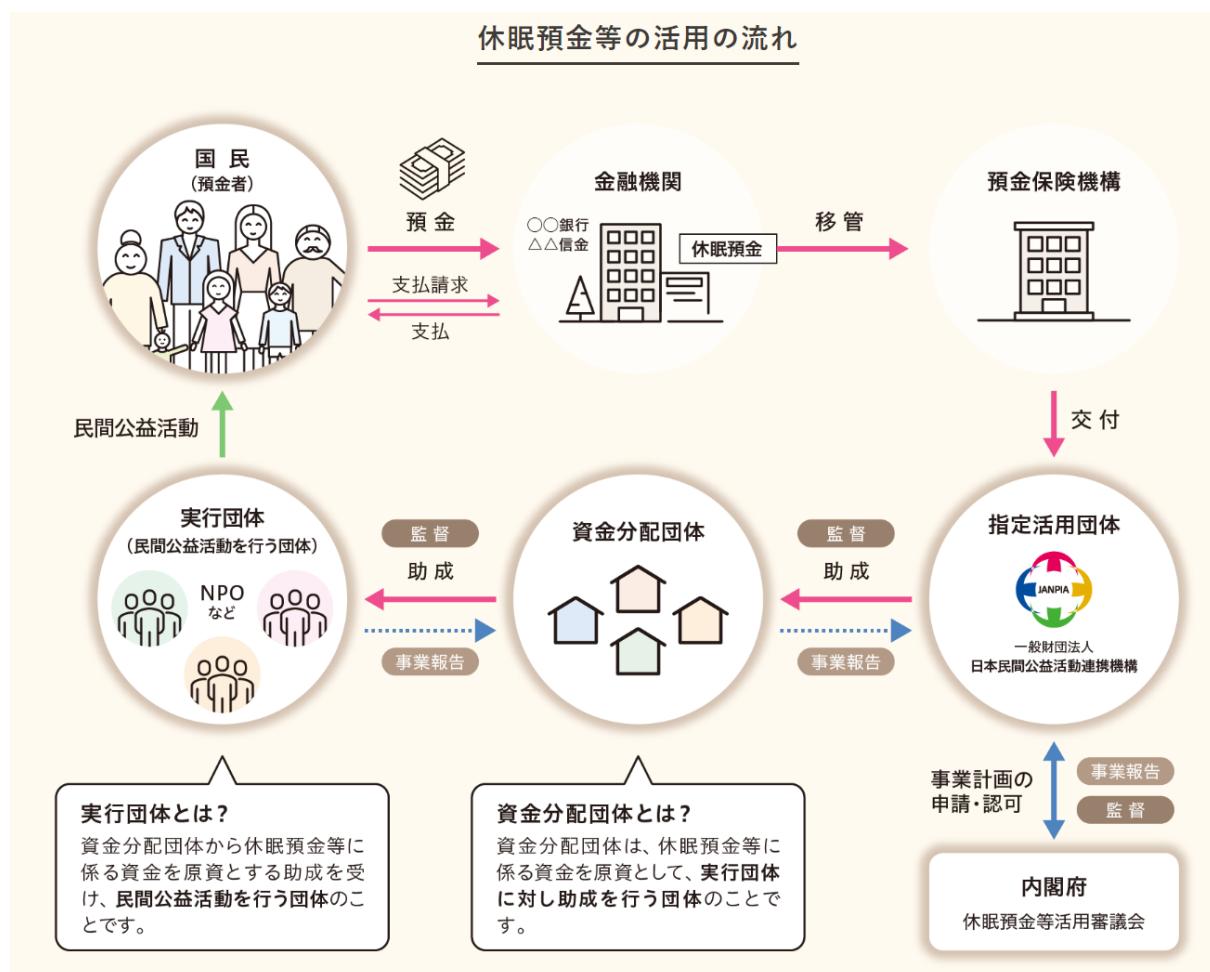
公益財団法人パブリックリソース財団(以下、当財団)は、休眠預金等活用法に基づく2020年度通常枠資金分配団体として、「中核的フードバンクによる地域包括支援体制」(以下、本事業)を実施した。

本事業では、全国5地域(山梨県、千葉県、埼玉地区、東京都多摩地区、神奈川県)を対象地域として、5つの実行団体を採択し、実行団体に対する資金助成と伴走という形で、約3年間にわたり支援を行った。

本報告書では、本事業の事後評価結果を報告するとともに、本事業の今後の発展に向けた提言や、本事業から得られた知見・教訓の報告を行いたい。

### 休眠預金活用事業とは

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律(休眠預金等活用法)」に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等(休眠預金等)を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度であり、2019年度から始まっている。



### 休眠預金等活用の目的

- ①国、地方公共団体が対応困難な社会の諸課題の解決を図る。
- ②民間公益活動の担い手の育成と民間公益活動に係る資金調査津の環境を整備。

## 目的達成で期待される効果

- ・社会の諸課題の解決のための自律的かつ持続的な仕組みが構築。
- ・民間公益活動を行う団体の資金的自立性と事業の持続可能性を確保。

当財団は、本事業の 2020 年度通常枠(新規企画支援事業(イノベーション企画支援事業))の資金分配団体として採択され、2020 年4月から 2024 年3月まで、本事業を実施した。

## 2. 報告書要約

公益財団法人パブリックリソース財団は、資金分配団体として休眠預金等活用事業(2020 年度通常枠:イノベーション企画支援事業)の採択を受け、2020 年4月から 2024 年3月にかけて「中核的フードバンクによる包括支援体制」事業を実施した。なお、実行団体は食支援活動を行う全国5団体であった。本事業評価は、この「中核的フードバンクによる包括支援体制」事業の実施状況や事業成果の達成状況を評価し、報告するために実施された。また加えて、今後この取組みを推進していくために必要と考えられるなどを整理し、提言として提示することも行われた。

本事業評価では、まず、「中核的フードバンクによる包括的支援体制」事業が想定する成果(社会的インパクト)を ToC(セオリー・オブ・チェンジ)として整理した。この ToC には大きく、実行団体の変化、フードバンクへの支援を期待する企業の変化、地域の食支援を担う支援団体の変化、支援団体による支援を受ける利用者の変化、そして社会全体の変化が規定された。次に、ToC に規定したこうした変化が実際に本事業によって起こされたのかを把握し、その程度が十分な水準であったのかを評価するために、実行団体を対象にしたアンケート調査、企業を対象にしたアンケート調査及びヒアリング調査、支援団体を対象にしたアンケート調査、利用者を対象にしたアンケート調査、コンソーシアム成果報告会参加者を対象にしたアンケート調査、企業担当者を対象にしたインタビュー調査を実施した。

その結果、本事業で想定したアウトプット(①コンソーシアムの形成を支援するファシリテーターの派遣、②コンソーシアムの情報共有・連携強化、③食品調達企業獲得のための取組み、④資金調達企業獲得のための取組み、⑤コンソーシアムの成果報告、⑥実行団体の組織基盤整備・強化、⑦中核的フードバンクを中心としたコンソーシアムの立ち上げ、⑧食品配布先拡大のための取組み、⑨行政との連携拡大のための取組み、⑩食品・外食関連企業による食品廃棄量減少のための取組み)はおおよそ十分な水準で実施されたと評価し、本事業で想定した成果・アウトカム(①中核的フードバンクのビジョンが固まり、対象地域においてコンソーシアムが設立される、②中核的フードバンクの食品調達力が向上する、③中核的フードバンクの財政基盤が強化される、④フードバンクに賛同・協働する企業が増加する、⑤企業・行政・国(管轄省庁)・全国フードバンク事業者に中核的フードバンクの意義が伝わり、関心が高まる、⑥企業に良い変化がみられる、⑦企業価値が高まる、⑧企業として SDGs に貢献できる、⑨支援団体がより良い支援を行えるようになる、⑩支援団体の活動が維持される、⑪支援団体の活動が多くの利用者に届いている、⑫利用者に良い変化がみられる、⑬利用者の気持ちに余裕が生まれる、⑭利用者の家庭内の課題悪化が防がれる、⑮本事業が先駆的モデルとなり、全国各地で類似事例の実践が始まる)もおおよそ十分な水準で達成されたと評価した。

そして、本事業によってこうした成果・アウトカムが達成できた成功要因として、「中核的フードバンクとしての機能を保有・強化するための設備投資」及び「外部専門家による伴走支援」を挙げ、本事業をより発展させるために「地域の食支援団体を支える役割を担う『中核的フードバンク』のニーズがあること、そしてその役割を担うことが可能であること」、「JANPIA との連携強化」、「中核的フードバンクが取り扱う『米』の安定的な確保に向けた取組み」を提言した。

その一方で、本事業の課題としては「連携可能な企業の開拓が思うように至らなかった点」、「評価を事業運営に活かしきれなかった点」が挙げられた。

## 3. 基本情報

### 3-1. 団体概要

#### 1) 資金分配団体名

公益財団法人パブリックリソース財団

#### 2) 団体概要

2000 年に非営利のシンクタンク、NPO 法人パブリックリソースセンターとして発足し、NPO など非営利事業体のマネジメント強化、SRI(社会的責任投資)にかかる企業の社会性評価や CSR の推進支援、そしてオンライン寄付をはじめとする寄付推進事業などを展開。

2013 年1月、これらの成果と蓄積を踏まえ、「誰かの力になりたい」という人びとの志を寄付で実現するために、個人や企業の資金力を社会的事業への投資につなぐ寄付推進の専門組織「公益財団法人パブリックリソース財団」として新たにスタート。「意志ある寄付で社会を変える」ことをミッションに、オリジナル基金®、遺贈、相続財産による寄付、オンライン寄付など様々な寄付の方法を提供し、人生を豊かにする寄付、未来を切り拓く寄付の仕組みづくりに取り組む。

### 3-2. 事業概要

#### 1) 事業名

中核的フードバンクによる地域包括支援体制

#### 2) 事業概要

##### (1) 事業の種類

2020 年度通常枠 イノベーション企画支援事業

##### (2) 事業の実施期間

2020 年4月から 2024 年3月

##### (3) 事業対象地域

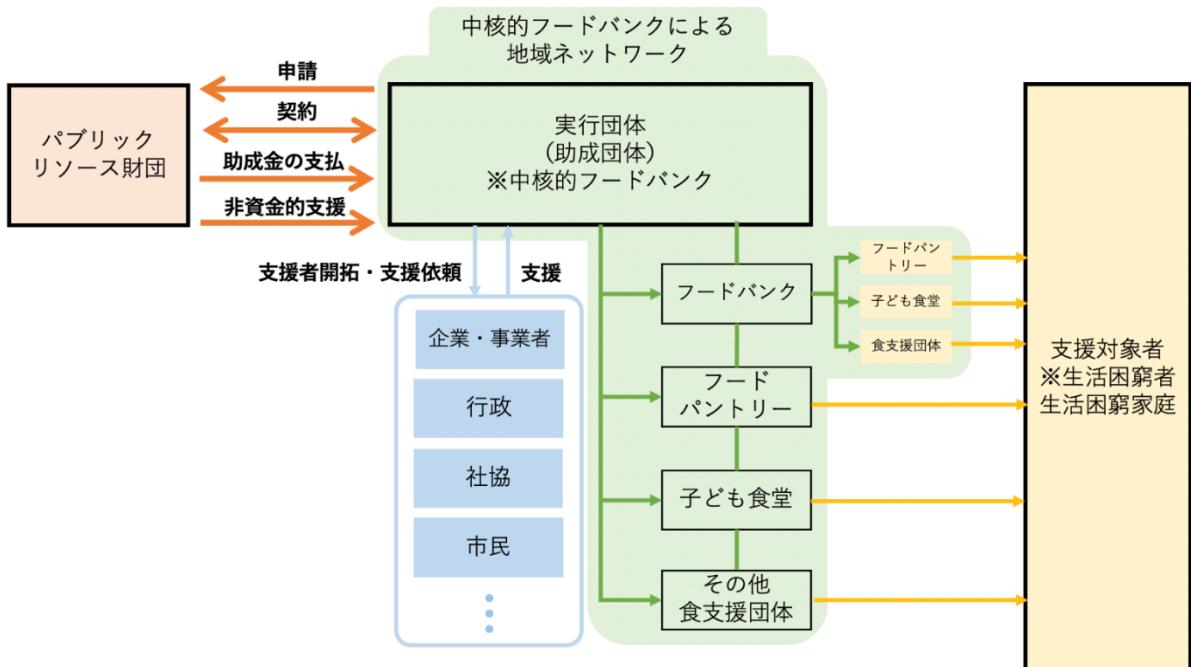
東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県、山梨県

##### (4) 事業内容

地域の食支援ネットワークの中核となる団体の基盤強化を行い、継続的な食品・資金調達につなげ、地域のフードバンク、子ども食堂、フードパントリー等と連携関係をつくることを通じ、県域レベルの包括的な食支援の体制構築を目指す。

\* 中核的フードバンクのイメージ\*

地域の食支援を担うフードバンクや子ども食堂、フードパントリーが活動を継続するために、食品・資金調達のための団体間のネットワーク形成や地域のハブとなるフードバンク



### (5) 事業終了時の展望(当初案)

各実行団体の活動地域において、地域の子ども食堂・フードバンントリー・フードバンクが連携し、中核的フードバンクを中心とした県域レベルのコンソーシアムが確立して自立したインフラとなり、企業や行政とつながって食品調達や資金調達を強力に推し進める。

食品を必要とする世帯に必要な食品が継続的に配布され、子どもたちが食に欠ける状況を脱することができるようになり、同時にフードロスを削減する。実行団体が先駆的モデルとなり、全国各地で類似事例の実践が始まる。

## 3) 公募概要

### (1) 公募期間

2021年2月3日から2021年3月26日

### (2) 公募情報発信方法

自団体 HP のほか、フードバンクや子ども食堂等の中間組織の協力を得て、情報提供。また、当該事業に興味を持った約30団体向けに説明会を開催した。

### (3) 説明会開催回数

2回(オンライン、同日の午前の部と午後の部)

### (4) 公募団体数

20団体

### (5) 公募の良かった点と課題

- ・応募期間が短かったが、想定していた応募数が集まった。
- ・応募前にフードバンク中間支援組織やフードバンク事業者へヒアリングをして現場のニーズや課題を把握し、それを参考にした応募要項を策定できた。
- ・限られた時間ではあったものの、申請団体から直接申請事業について説明を聞くことができ、かつ、質疑応答ができたため、その後の審査の議論において大いに参考になった。
- ・コロナ禍でもあり、事前に事務局による申請団体訪問ができず、そこで見聞きした団体等の情報を審

査会に提供することが叶わなかった。

#### 4) 実行団体

##### (1) 特定非営利活動法人フードバンク山梨

###### ●事業名

山梨県下における包括的なフードバンク支援体制構築事業

###### ●事業概要

###### 【全県的なフードバンク・ネットワーク体制の構築】

これまでの行政、企業、福祉団体、他NPO(含・県内の他フードバンク)、個人との連携の輪をさらに広げ、それらを網羅したネットワーク組織(仮称:山梨フードバンク・ネットワーク)を新たに設立する。

それにより、寄贈される食品の量をさらに増やしていくとともに、当法人が中核的役割を果たしつつ他の支援団体等と連携、分担して、あまねく生活困窮世帯の把握や食料の配布、相談支援、学習支援等を行える体制を構築する。

###### ●実施地域

山梨県

##### (2) 特定労働者協同組合ワーカーズコープちば

###### ●事業名

千葉県下におけるフードバンクの中核的プラットフォーム構築事業

###### ●事業概要

「フードバンクちば」では、県内のさまざまな団体と連携をして千葉県全体を活動エリアとしてすでに中核的FB活動に取り組んでいる。今回の事業での取り組みとしては、

①現在の紙ベースのデータ管理からIT化に取り組み、限られた運転資金と人的資源のもとで、情報、物流を最大限の効率で動かし、中核的FB活動の持続化を図る。

②一緒に取り組む連携団体をふやし、さらにはそのうちの3か所を目安に物流のサテライト機能を任せることを目指す。

千葉県は広く1か所の物流拠点で全県を対象に食品をやりとりすることは非効率であるという点から、IT化を活用し労力をかけないサテライト機能を構築する。

###### ●実施地域

千葉県

##### (3) 特定非営利活動法人フードバンクネット西埼玉

###### ●事業名

中核的フードバンクとしての基盤強化を目的とした事業

###### ●事業概要

外部専門家に依頼をして各種規定類を整備するなど、法人としての基盤を強化する。また倉庫の改修・設備強化を行い、効率的かつ安全にフードバンク活動ができるようにしていく。

立ち上げから5年が経過し、地域に周知され活動が拡大するに従い、事務作業や倉庫作業が煩雑となってきたが、ボランティアベースの活動のため安定した人材を確保することが難しく課題となっていた。事

務局、倉庫業務、配送担当など、それぞれの役割を担うスタッフを安定的に確保し、ボランティアスタッフの負担軽減を図って活動全体を安定させる。

スタッフの確保に当たっては、専門家の助言を得ながら雇用環境の整備を図る。さらに資金調達アドバイザーからの支援を受けつつ、資金調達、特に協賛団体を増やし、自力で活動資金を調達できることを目指す。

### ●実施地域

埼玉県

## (4) 特定非営利活動法人フードバンク TAMA

### ●事業名

「多摩地域フードバンクネットワーク」の構築と食支援体制の拡大強化

### ●事業概要

①日野市、八王子市、立川市、昭島市、町田市、調布市、三鷹市、狛江市、青梅市において既に 10箇所のフードバンクが設立されているものの、今後、多摩地域各市に最低1つはフードバンクが望ましく、そうしたフードバンク活動を行う基盤として「多摩地域フードバンクネットワーク」を構築することで、横断的機能を発揮したいと考えている。この効果は食品企業のフードロス対策としての食品ロスの統合的な受け皿になり得ると考えている。

②多摩地域には子ども食堂が数多くあり、多摩地域全体をカバーする「多摩子ども食堂ネットワーク」と積極的に連携して子育て貧困家庭への食支援を積極的に取り組んでいく。これにより、市をまたいでの利用が可能となるという効果が見込まれる。

### ●実施地域

東京都

## (5) 公益社団法人フードバンクかながわ

### ●事業名

フードバンク活動のさらなる発展のために

### ●事業概要

#### (1) 食料の収集・配布を通じた、生活困窮者等への支援事業

①生活困窮者等、食の支援を必要とする方々への支援活動を実施している非営利団体・施設・行政等へ収集食品の無償提供を行う団体・個人を拡大する。

②支援活動団体や行政機関、社会福祉協議会のネットワークの構築を図る。

#### (2) 地域社会における市民の相互扶助を増進することを目的とする事業

①食の支援を必要としている方々への支援活動(非営利団体等)がさらに拡がるよう神奈川県民にむけ、フードバンクを活用した実践事例等の情報提供を行う。

②支援活動を実施している市民団体等の交流の場を設ける。

### ●実施地域

神奈川県

### 3-3. 3年間の歩み

#### 1) 0年目～1年目(2020年11月～2022年3月)

##### (1) より良い事業申請をしてもらうための応募要項の設計

フードバンクや子ども食堂事業者、それらの領域の中間支援組織である8団体を対象に、企画している休眠預金事業の実現可能性、どのようなモデルが想定できるか、現場の課題や資金・非資金的支援にどのようなニーズがあるか等ヒアリングを実施し、より良い事業の応募をしてもらうべく、応募要項づくりの参考にした。

##### (2) 実行団体の公募から採択・契約まで

2021年2月から実行団体の公募を開始し、公募期間中に説明会をオンラインで開催した。応募要項の詳細説明や応募を検討している団体からの質問に応える形式で、28団体が参加した。また、希望した団体には個別の相談も受け付けた。

2021年3月に公募を締め切り、20団体(フードバンク:14、子ども食堂:5、中間支援組織:1)から応募があった。外部専門家4名による審査会にて、書類審査、一次審査、二次審査を経て実行団体として5団体が内定した。

同年6月に内定団体を対象に事業説明と契約締結までのプロセスについてオリエンテーションを開催した。資金提供契約に必要な計画書(事業計画書、資金計画書、評価計画書)の作成、確認を経て、7月に資金提供契約を締結し、実行団体の事業開始に至った。

##### (3) 実行団体への伴走支援

当財団の本事業実施体制は、プログラムオфиサー3名(2022年度から2名体制)と事業全体の監督として管理職が関与して事業遂行にあたった。

実行団体ごとに月1回の定例月次ミーティングを開催し、現在の活動状況の共有、相談対応、事務手続きの案内等を行った。

また、実行団体が一堂に集まっての意見交換会を開催をオンラインにて開催し、

- これまでの取り組み
- どういう中核的フードバンクを目指しているのか
- 現在の進捗状況
- 課題、悩み
- 成功・失敗事例
- 他の実行団体に聞きたいこと

等を発表、質疑応答する機会を設けた。

その他には、実行団体の個別の要望により外部専門家(クラウドファンディング分野、評価アドバイザー等)の紹介を実施する。

また、今後の組織基盤の整備、強化に向けた伴走支援を実施するため、中核的フードバンクとして自団体がどの程度整備、確立されているか、テーマごとに達成度合いを評価し課題を明確化、把握するためのアセスメントシートを開発し、セルフアセスメントを実施した。それに基づき、全国フードバンク推進協議会・米山氏による伴走支援計画の立案も行った。

##### (4) 2年目に向けた継続審査

事業1年目が終了し、次年度を迎えるにあたり、審査会において実行団体ごとに、1年目の活動実績、進捗状況、活動している中で生じている課題、次年度の取り組みについてプレゼンしてもらい、それを受

けて事業継続の可否を審議する継続審査を実施した。そして、継続審査において活発な議論の末、全実行団体が継続することが承認された。

## 2) 2年目(2022年4月～2023年3月)

### (1) 実行団体への伴走支援の充実、強化

前年度に引き続き、実行団体ごとに月1回の定例月次ミーティングにて活動状況の共有、相談対応、事務手続きの案内を実施した。

また、前年度末に策定した実行団体ごとの伴走支援計画に基づき、全国フードバンク推進協議会・米山氏による伴走支援を実行団体ごと個別に開始した。

また、各実行団体が抱える課題解決の一助となるようなノウハウ共有・意見交換等ができるよう、実行団体同士が個別に連絡を取り合えるよう働きかけを行った。

### (2) 中間評価の実施、中間評価レビュー(2022年12月8日)で評価計画書の見直し

中間評価レビュー会において評価アドバイザーから様々なフィードバックを受け、非資金的支援・資金支援のアウトプット・アウトカムの項目、指標、データ収集方法の整理、見直しを図った。また、当初の事業計画書には入れていなかった、実行団体の組織基盤整備・強化に関する伴走支援を介入とした変化を新たなアウトカムとして加えた。

### (3) 3年目に向けた継続審査

前年度に引き続き、3年目を迎えるにあたり、審査会において実行団体ごとに、2年目の活動実績、進捗状況、活動している中で生じている課題、次年度の取り組みについてプレゼンしてもらい、それを受けて事業継続の可否を審議し、全実行団体が最終年度へ継続することが承認された。

## 3) 3年目(2023年4月～2024年3月)

### (1) 助成事業終了後の実行団体の事業継続、および事業終了後の事業継続性を高めることを目指とした向けた伴走支援を強化

実行団体の要望により外部専門家の紹介(事業終了後もそのノウハウを蓄積すべくクラウドファンディング専門家、事後評価に受けた体制強化のための評価アドバイザー)を実施した。また、助成事業終了後の実行団体の事業継続性を高めるため、課題を抱える実行団体を対象に、資金分配団体より外部専門家(NPO事業運営に関する専門家、ファンドレイジング戦略立案・法人営業実行の専門家、クラウドファンディング専門家伴走のもと立ち上げと進捗管理およびノウハウ蓄積)を派遣した。

### (2) 成果報告会の開催

2024年3月6日(水)に本事業の成果を情報公開することを目的とした成果報告会をオンラインにて開催した。実行団体からはもとより、審査委員、外部専門家、一般社団法人全国フードバンク推進協議会の成果報告会開催の広報にご協力をいただくことで、当日はたくさんの方々にご参加いただき、盛況のうちに終了した。

### (3) 事後評価の実施と実行団体への伴走支援

資金分配団体の評価アドバイザーとして日本社会事業大学・講師の新藤健太氏を招聘した。改めて、資金分配団としてのロジックモデルを整理した上で、評価設計、調査票設計、収集データの分析、考察、報告書執筆にあたって頂いた。

アンケート実施後に、食品寄贈企業の回答が少なかったため、追加で当財団による2社の食品寄贈メ

一ヵ月ヒアリングを実施し、その画像データも分析・評価に活かした。

また、実行団体向けの調査を実施するにあたり、改めて評価の考え方、事後評価報告書に記載する事項等、実行団体での事後評価の進め方について説明会を、2023年7月21日・24日にオンラインで開催した。

## 4. 包括的支援プログラム概要

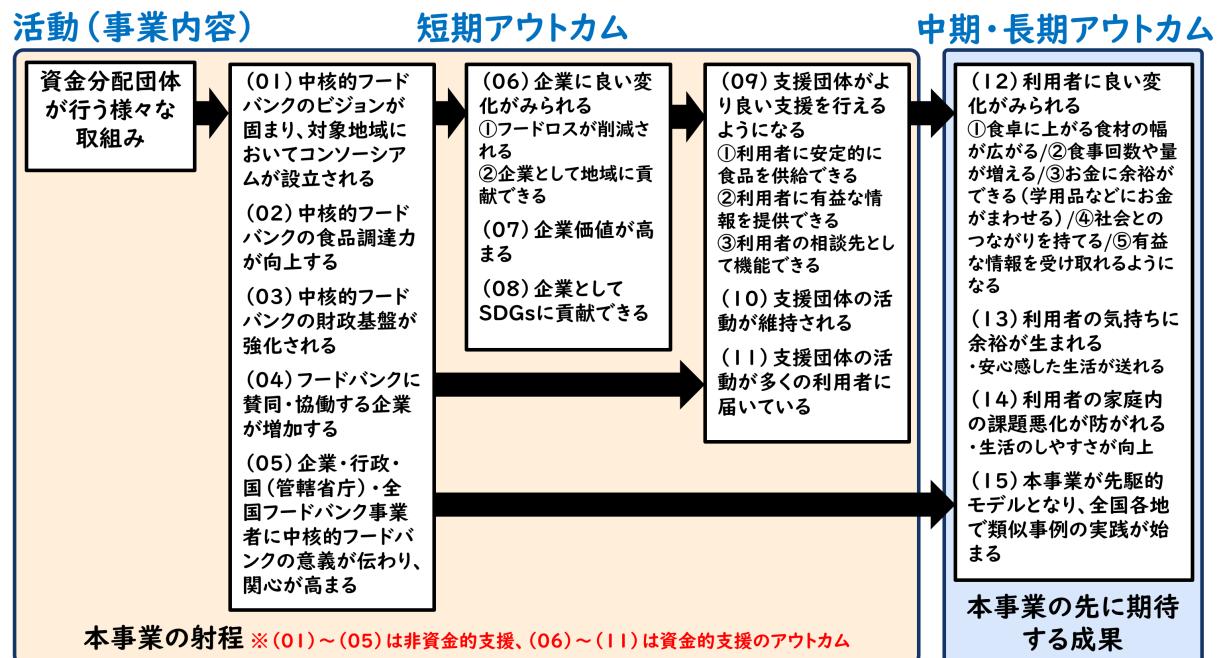


図 1. 本事業のセオリーオブ・チェンジ

## フードバンク活動の専門家として一般社団法人全国フードバンク推進協議会・理事長米山氏による実行団体の事業推進をサポートする伴走支援

中核的フードバンクとして事業を推進し、団体が成長するために、伴走支援者として一般社団法人全国フードバンク推進協議会・理事長・米山氏にその任を担っていただいた。

中核的フードバンクとして備えておくべき設備や組織基盤等を項目立てし、アセスメントシートを開発した。そのアセスメントシートを実行団体ごと自らシートでチェックすることで、課題を抽出し、米山氏と実行団体との密な会話によって解決する課題の優先順位をつけ、それに向けた伴走支援計画を立案し、伴走支援活動に取り組んでいただいた。

なお、アセスメントシートと伴走支援計画は本報告書 79～83 ページに掲載したため、そちらを参照いただきたい。

## 5. 事後評価実施概要

### 5-1. 実施概要

本報告書(p11)に掲載のセオリーオブ・チェンジにある通り、資金支援における本事業の直接的な対象は「企業」と「ネットワーク団体」である。以下、それぞれの調査実施概要について説明する。

## 1) 企業を対象にしたアンケート調査

### (1) 調査実施時期

2023年7月26日～9月30日まで

### (2) 調査対象及びアンケート票回収数(回収率)

99か所の企業を対象とし、42か所から回答を得た(回収率42.4%)。

### (3) 調査内容(アンケート調査票の項目)

問1:SDGsへの取組み状況

問2:寄付したい食材等

問3:本事業に協力するようになってからの変化

問4:フードロス数(2018年度～2022年度にかけて)

問5:フードバンク等の理解促進に関する貢献

問6:従業員数

問7:業種

問8:本事業以外のフードバンク等に関する団体との付き合い

問9:本事業に協力し始めた時期

問10:本事業に協力し始めた理由

※調査項目の詳細は本報告書56～60ページに掲載のアンケート票を参照いただきたい。

## 2) 企業担当者を対象にしたインタビュー調査

### (1) 調査実施時期

2024年1月18日及び2024年1月24日

### (2) 調査対象者

A社、B社(いずれも食料品を扱う企業)

### (3) 主な質問項目(インタビューガイド)

問1:食品関連企業として、フードバンクへ食品寄贈している背景について

問2:年度ごとのフードロスしている量について

問3:どのような理由でフードロスとなっているのかについて

問4:中核的フードバンク(実行団体)に協力をする前後で、どのような変化や影響があつたか

問5:中核的フードバンク(実行団体)以外に食品寄贈しているフードバンク団体はあるか

問6:フードバンク団体へ食品寄贈している量(年度ごと)について

問7:中核的フードバンク(実行団体)へ食品寄贈の協力をされたきっかけについて

問8:フードバンク団体への食品寄贈は、貴社のフードロス削減にどのような影響があるか

問9:今後、どういった食品、食材をフードバンク団体に寄贈する可能性があるか

問10:食品、食材寄贈以外のフードバンク団体への協力の可能性はあるか、ある場合は具体的にどのような協力となりそうか

## 3) 支援団体を対象にしたアンケート調査

### (1) 調査実施時期

2023年7月26日～9月30日まで

## (2) 調査対象及びアンケート票回収数(回収率)

275 か所の団体を対象とし、93 か所から回答を得た(回収率 33.8%)。

## (3) 調査内容(アンケート調査票の項目)

問1:活動を始めた時期

問2:利用者の人数(2018 年度～2022 年度にかけて)

問3:活動の継続に関する考え方

問4:利用者から感謝されているか、必要とされているか

問5:食料品の保管・配達方法の整備

問6:食品の供給状況

問7:利用者からの相談や支援機関の紹介状況

問8:活動の運営主体(個人か団体か)

問9:運営者の年齢

問 10:現在の活動をはじめたきっかけや動機

※調査項目の詳細は本報告書 61～66 ページに掲載のアンケート票を参照いただきたい。

また、非資金的支援における本事業の直接的な対象は「中核的フードバンク(実行団体)」と「地域・社会(先駆的モデルの全国普及)」である。以下、それぞれの調査実施概要について説明する。

## 4) 中核的フードバンク(実行団体)をアンケート対象にした調査

### (1) 調査実施時期

2023 年 11 月 27 日～12 月 17 日まで

## (2) 調査対象及びアンケート票回収数(回収率)

5か所の実行団体を対象とし、5団体から回答を得た(回収率 100%)。

## (3) 調査内容(アンケート調査票の項目)

問1:2018 年度から 2022 年度にかけての食品調達量

問2:2018 年度から 2022 年度にかけての食品配布量(支援量)

問3:休眠預金等活用事業の3年間で、調達した食料や配布した食品のバリエーションに変化はあったか

問4:2018 年度から 2022 年度にかけての寄付者数

問5:2018 年度から 2022 年度にかけての寄付金額

問6:事業運営に必要な収入が十分に確保できているか

問7:2018 年度から 2022 年度にかけての食品等寄贈企業数

問8:2018 年度から 2022 年度にかけての食品等寄贈数

問9:休眠預金等活用事業の3年間で、寄贈して頂いた食品等のバリエーションに変化はあったか

問 10:フードバンク活動に精通した専門家の選定・派遣(ミーティングや現地訪問を通したアドバイスなど)は役に立ったか

問 11:コンソーシアム内での情報共有・連携強化(実行団体間等の定期会合や先行事例の視察等)は役に立ったか

問 12:中核的フードバンクの財政基盤強化支援(ファンドレイジングのアドバイス等)は役に立ったか

問 13: フードバンクに賛同・協力する企業を増やすための支援 (JANPIA と連携した食品寄贈企業の開拓や Give One を活用した寄付の協力企業・個人の開拓等) は役に立ったか

問 14: 評価伴走支援 (ロジックモデル作成や評価調査のアドバイス、評価専門家の紹介等) は役に立ったか

問 15: その他、役に立った支援

※調査項目の詳細は本報告書 67~74 ページに掲載のアンケート票を参照いただきたい。

最後に、本事業の中・長期的な対象は最終受益者となる「利用者」及び「社会・地域」である。まず、利用者に関する調査の実施概要は次の通りである。

なお、フードバンクや子ども食堂等食支援団体の支援を受ける「利用者」は、貧困世帯のみならず、食品支援をしているフードバンク等の団体の方針によって利用者の属性は様々であり、利用者の所属も広範であることは予め認識しておく必要がある。

## 5) 利用者を対象にしたアンケート調査

### (1) 調査実施時期

2023 年 7 月 26 日～9 月 30 日まで

### (2) 調査対象及びアンケート票回収数 (回収率)

本調査は 581 名からの回答を得ることができたが、実際に何名 (何世帯) の利用者を対象にしたかの正確な人数 (世帯数) は把握できていない。そのため、本アンケート調査の回収率は不明である。

### (3) 調査内容 (アンケート調査票の項目)

問1: 支援を利用し始めた時期

問2: 生活のしやすさ

問3: 安心した生活を送っているか

問4: 食卓に上がる食材の幅は広がったか

問5: (問4に関連して) その食材とは何か

問6: 1 日 3 食食べられているか

問7: おやつ等間食を食べることはあるか

問8: 食事の量は増えたか

問9: (問8に関連して) どう増えたのか

問 10: 生活費全般に困難さはあるか

問 11: 孤独感を感じることはあるか

問 12: 顔なじみのスタッフはいるか

問 13: 困り事をキヤッチしてもらったことはあるか

問 14: (問 13 に関連して) それは何か

問 15: 有益かもしれない情報を得たことはあるか

問 16: お子様の人数

問 17: お子様の年齢

問 18: 回答者の年齢

問 19: 世帯の状況

## 問 20:年収

※調査項目の詳細は本報告書 75~76 ページに掲載のアンケート票を参照いただきたい。

さらに、中・長期アウトカムに位置付けられる社会・地域(企業・行政・国(管轄省庁)・全国フードバンク事業者)における成果(アウトカム)を把握するために、2024 年3月6日(水)に開催したコンソーシアム成果報告会参加者へのアンケート調査も実施した。

その実施概要は次の通りである。

### 6) コンソーシアム成果報告会参加者を対象にしたアンケート調査

#### (1) 調査実施時期

2024年3月6日(金)

#### (2) 調査対象及びアンケート票回収数(回収率)

30 人の参加者を対象とし、13 人から回答を得た(回収率 43.3%)。

#### (3) 調査内容(アンケート調査票の項目)

問1:メールアドレス

問2:お名前

問3:所属団体・所属機関名

問4:本成果報告会に参加されたきっかけを教えてください

問5:現在食支援活動(フードバンク・子ども食堂・フードパントリー等)に取り組んでいますか

問6:(問5で“はい”的場合)主な活動場所を教えてください(都道府県+市町村名)

問7:本事業の実行団体(FB かながわ、FB 西埼玉、FB TAMA、FB ちば、FB 山梨)のうち、関係のある団体はどれですか(ネットワークに加盟、同意書締結など)

問8:中核的フードバンクの意義は伝わりましたか(我々は本成果報告会で参加者の皆さんに中核的フードバンクの意義を伝えることができましたか)

問9:本事業の取り組みである「中核的フードバンク」についてどう思いましたか

問 10:本事業の「中核的フードバンク」に類似した取り組みをご存知ですか

問 11:(問 10 で“はい”的場合)団体名と活動地域を教えてください

問 12:中核的フードバンクに取り組んで見ようと思いましたか

問 13:本成果報告会の感想を教えてください

※調査項目の詳細は本報告書 77~78 ページに掲載のアンケート票を参照いただきたい。

## 5-2. 実施体制

内部／外部	評価担当役割	氏名	団体・役職
内部	全体統括、データ収集、報告書作成	鎌田淳	公益財団法人パブリックリソース財団 プログラムオフィサー
内部	データ収取、報告書作成	鴨原佳奈	公益財団法人パブリックリソース財団 プログラムオフィサー
外部	評価全般のアドバイス、ロジックモデル再整理、	新藤健太	日本社会事業大学社会福祉学部講師 評価アドバイザー

	評価設計の再整理、 データ分析、報告書作成		
--	--------------------------	--	--

## 6. 事業の実績

### 6-1. インプット

項目	内容・金額	
(1) 人材	内部:合計5名(全員兼任、途中2名が交代で常に3名体制) 外部:評価アドバイザー4名、ファンドレイザー2名、フードバンク専門家1名	
(2) 資機材	なし	
(3) 経費		
①契約当初の計画金額	事業費総額 ・実行団体への助成額 (総額) ・PO 関連経費 ・管理的経費 ・評価関連経費	248,862,630 円 176,000,000 円 25,855,600 円 29,461,030 円 17,546,000 円
②実際に投入した金額と種類	事業費総額 ・実行団体への助成額 (総額) ・PO 関連経費 ・管理的経費 ・評価関連経費	206,539,209 円 154,642,263 円 22,871,423 円 24,914,081 円 4,111,442 円
(4) 自己資金		
①契約当初の自己資金の計画金額	事業費総額 ・実行団体への助成額 (総額) ・PO 関連経費 ・管理的経費 ・評価関連経費	3,600,000 円 0円 0円 3,600,000 円 0円
②実際に投入した自己資金の金額と種類	事業費総額 ・実行団体への助成額 (総額) ・PO 関連経費 ・管理的経費 ・評価関連経費	3,600,000 円 0円 0円 3,600,000 円 0円
③資金調達で工夫した点	特になし ※資金は内部留保から確保した	

## 6-2. 活動とアウトプットの実績(非資金的支援)

本事業の非資金的支援における活動とアウトプットの実績について、まずはアウトプットそれぞれの指標や初期値(状態)、目標値(状態)を示し、これに対応した実績及び評価を記述する。

なお、表中の「FB」はフードバンクの略である。

アウトプット(01)	コンソーシアム形成を支援するファシリテーターの派遣		
	主な活動:①コンソーシアム形成を支援するファシリテーターの人選・委託契約、②ファシリテーターの助力を得つつ、コンソーシアムを形成		
指標	初期値	目標	目標達成時期
オンラインミーティングの回数	0回	2~3回/月・箇所	2024年3月
現地訪問の回数	0回	1~2回/年・箇所	2024年3月

これに対して、中核的フードバンクとして事業を推進し、団体が成長するために、伴走支援者として一般社団法人全国フードバンク推進協議会・理事長・米山氏にその任を担っていただいた。

具体的には、まず中核的フードバンクとして備えておくべき設備や組織基盤等を項目立てし、アセスメントシートを開発した。次に、そのアセスメントシートを用いて、実行団体ごと自己チェックをすることで、課題を抽出し、米山氏と実行団体との密な会話によって解決する課題の優先順位をつけ、それに向けた伴走支援計画を立案し、伴走支援活動(オンラインミーティングや現地訪問)に取り組んでいただいた。

休眠預金事業実施期間中、オンラインミーティングの回数は2024年3月15日時点で、事業期間3年間において、FB TAMA:7回、FB かながわ:5回、FB 西埼玉:12回、FB 山梨:7回、FB ちば:が9回、現地訪問は、FB TAMA:1回、FB かながわ:2回、FB 西埼玉:2回、FB 山梨:6回、FB ちば:2回であった。

なお、事業開始後2年目までは目標を上回る頻度のミーティングと現地訪問を実施していたが、3年目はその頻度が落ちた。しかし、課題解決の進捗が進むことでその頻度が落ちるのは当然と考える。

以上のことから「コンソーシアム形成を支援するファシリテーターの派遣」のアウトプットは当初の目標通りの水準より少なかった評価した。

※記入済みのアセスメントシート及び伴走支援計画は本報告書 79~83 ページに掲載の「アセスメントシート」及び「伴走支援計画」を参照いただきたい。

アウトプット(02)	コンソーシアムの情報共有・連携強化		
	主な活動:①ファシリテーターの助力を得つつ、コンソーシアム内の定期会合の実施、②実行団体間の定期会合の実施、③子ども食堂・フードパントリー・フードバンク連携の先進事例の視察		
指標	初期値	目標	目標達成時期
コンソーシアム内の定期会合の回数	0回/年	2回/年	2024年3月
実行団体間の定期会合の回数	0回/年	1回/年	2024年3月
先進事例の視察回数(※施設受入含む)	0団体/年	1~2団体/年	2024年3月

これに対して、2023年12月31日時点での実績は、コンソーシアム内の定期会合は全実行団において年2回以上の会合を開催した。実行団体間の定期会合は2021年度に実行団体が一堂に集まったオンライン

インでの情報交換会を1回開催し、2022年度、2022年度は実行団体個別に会合や団体訪問を実施した。

先進事例の視察回数は他団体の視察受け入れをFB TAMAが6回、FBかながわが6回、FB西埼玉が2回、FB山梨が1回実施し、他団体への視察はFBちばが5回、FB西埼玉が4回、FB山梨が3回実施した。

以上のことから「コンソーシアムの情報共有・連携強化」のアウトプットは自団体の事業をプラスシュアップするための有効な情報収集を目的とした活動は実施し、他団体に対して自団体の事業内容を公開することで、双方で学び合う水準であったと評価した。

アウトプット(03)	食品調達先企業獲得のための取組		
	主な活動:①JANPIAと連携し、食品調達先企業を開拓、②長期支援が可能な食品調達先企業を開拓		
	指標	初期値	目標
・食品調達先企業の数	FB TAMA:27社 FBかながわ:155社 FBちば:132社 FB西埼玉:35社 FB山梨:63社	FB TAMA:60社 FBかながわ:200社 FBちば:260社 FB西埼玉:初期値からの増加 FB山梨:1000社	2024年3月

これに対して、2023年12月31日時点での実績は、FB TAMAが65社、FBかながわが287社、FBちばが244社、FB西埼玉が45社、FB山梨が416社であった。

以上のことから「食品調達先企業の獲得」のアウトプットは、目標を達成していない実行団体もあったが、初期値からは大幅に増加した水準であったと評価した。

アウトプット(04)	資金調達先企業獲得のための取組		
	主な活動:寄付システム「Give One」活用による寄付企業・社員募金の開拓		
指標	初期値	目標	目標達成時期
実行団体がオンライン寄付システム「GiveOne」への登録をして資金調達する動線が確保できたか	山梨以外は未登録	全実行団体が登録され、この動線を活用して資金調達する環境が整う	2024年3月
オンライン寄付システム「GiveOne」を通じて社員募金寄付を企業内で集めることに協力してくれる企業数	0社	1社以上	2024年3月

これに対して、2024年3月31日時点での実績は、FB TAMA、FBかながわ、FBN西埼玉は2022年度にGive One新規団体としての登録に至った。FB山梨は既に登録済み、FBちばは2023年度にGive One新規団体として申請中となっている。そのため、FB TAMA、FBかながわ、FBN西埼玉の3団体に対しては、オンライン上で資金調達を行う際の動線を確保することができた。

FB山梨は既に登録済みであったことから、GiveOneを寄付呼びかけツールとして活用しており、GiveOneを経由した寄付者を獲得することができている。FB TAMA、FBかながわ、FBN西埼玉は、

GiveOneへの登録及びオンライン上で資金調達を行う際の動線確保に留まり、GiveOneを寄付呼びかけツールとして活用したり、GiveOneを経由した寄付者を獲得したりする段階にまで至らなかった。

以上のことから「実行団体がオンライン寄付システム「Give One」への登録をして資金調達する動線が確保できたか」については概ね達成できたものの、「オンライン寄付システム「Give One」を通じて社員募金寄付を企業内で集めることに協力してくれる企業数」のアウトプットは、目標に対しては達成することはできなかったと評価した。

アウトプット(05)	コンソーシアムの成果報告		
	主な活動:①ファシリテーターの助力を得つつ、実行団体の取り組みの成果まとめ、②報告会で成果報告・他県への展開のきっかけづくり		
指標	初期値	目標	目標達成時期
他県の中核的フードバンクとなりえる団体の出席数	0団体	実行団体所在地以外の10都道府県以上のフードバンク団体が出席する	2024年3月
県内のコンソーシアム構成候補団体の出席数	0団体	各実行団体所在地内の10以上の食支援団体が出席する	2024年3月

これに対して、2024年3月31日時点での実績は、他県の中核的フードバンクとなりえる団体の出席数は3団体の出席であり、県内のコンソーシアム構成候補団体の出席数は1団体であった。出席団体数が想定よりも少なった要因として、次の通り分析した。広報は特に問題がなかったと分析した。理由は、資金分配団体としての広報のみならず、5つの実行団体経由での広報、成果報告会登壇者経由での広報と、出来得る限りの広報は実施したためである。その一方で、広報内容の工夫が必要だったと分析した。理由は、弊財団のようないわゆる中間支援組織と、フードバンク事業が結びつかない・結びつきにくく、出席に至らなかった団体が多かったのではないかと分析した。成果報告会の様子は録画していたため、アーカイブ配信も視野に有効に活用していきたい。以上のことから「コンソーシアムの成果報告」のアウトプットは目標には及ばない水準であったと評価した。

アウトプット(06)	実行団体の組織基盤整備・強化のための取組		
	主な活動:実行団体ごとの課題を整理し、優先順位をつけ、フードバンク専門家による伴走支援によりそれらの課題を解消する		
指標	初期値	目標	目標達成時期
解決すべき課題の優先度上位からA→B→Cと位置付け、その解決率	・FB TAMA(A:11、B:13、C:11) ・FB かながわ(A:8、B:14、C:6) ・FB ちば(A:11、B:8、C:2) ・FB 山梨(A:17、B:7、C:12) ・FB 西埼玉(A:17、B:4、C:9)	A:100% B:80%以上 C:60%以上 解消される	2024年3月

これに対して、2024年1月31日時点での実績は、課題解決率は、FB TAMAがA:100%、B:92%、C:100%、FB かながわがA:100%、B:100%、C:100%、FB ちばがA:100%、B:100%、C:100%、FB 山梨がA:100%、B:100%、C:100%、FB 西埼玉がA:82%、B:75%、C:100%であった。

4団体は目標達成したが、1団体は未達であった。以上のことから「実行団体の組織基盤整備・強化」のアウトプットは概ね目標を達成した水準であったと評価した。

### 6-3. 活動とアウトプットの実績（資金支援）

本事業の資金支援における活動とアウトプットの実績について、まずはアウトプットそれぞれの指標や初期値（状態）、目標値（状態）を示し、これに対応した実績及び評価を記述する。

アウトプット(07)	中核的フードバンクを中心としたコンソーシアムの立ち上げ		
	主な活動：①コンソーシアムの事務局担当職員・事務所の配置、②ファシリテーターの助力を得つつ、コンソーシアムを形成		
指標	初期値	目標	目標達成時期
担当者を配置した中核的フードバンクの数	0団体	5団体	2022年3月
目指すべきコンソーシアムが立ち上がった団体の数	0か所	5か所	2024年3月
コンソーシアムの構成団体数	FB TAMA:0団体 FB かながわ:215団体 FB ちば:100団体 FB 西埼玉:20団体 FB 山梨:15団体	FB TAMA:10団体 FB かながわ:250団体 FB ちば:130団体 FB 西埼玉:30団体 FB 山梨:30団体	2024年3月

これに対して、2023年12月31日時点での実績は、担当者を配置した中核的フードバンクの数及び目指すべきコンソーシアムが立ち上がった団体の数は目標の5箇所で5つの中核的フードバンクが立ち上がった。具体的には、FB TAMAが12団体、FB かながわが358団体、FB ちばが244団体、西埼玉が30団体、FB 山梨が74団体であった。以上のことから「中核的フードバンクを中心としたコンソーシアムの立ち上げ」のアウトプットは目標を大幅に上回る水準であったと評価した。

アウトプット(08)	食品配布先拡大のための取組		
	主な活動：①食品配布件数・配布量の現状把握やニーズ把握のための調査実施、②食品貯蔵設備や管理システムの新設・見直し、③食品配布件数、配布量を拡大するための活動への取り組み		
指標	初期値	目標	目標達成時期
食料ニーズ調査実施の有無	全実行団体はこれら実施	利用団体を中心にアンケート、ヒアリングを実施	2024年3月
食品配送システムの円滑化効率化へ向けた事業改善が行われたか	これから取り組む	実行団体ごとに事業計画にそって実行	2024年3月
食品取扱量を拡大する取り組みが行われたか	これから取り組む	実行団体ごとに事業計画にそって実行	2024年3月

これに対して、2023年12月31日時点での実績は、全実行団体が食支援団体を中心にアンケートはヒアリングにてニーズ調査を実施。それらを参考に、実行団体は事業計画にそって食品配送システムの円

滑化や効率化に向けた活動を実施した。具体的には、倉庫拡充や冷蔵庫・冷凍庫の設置、配送用車両取得などが行われた。また、食品取扱量拡大に向けても実行団体ごとに実行された。その中で、FB かながわでは冷凍食品を取り扱うべく食品メーカーを開拓し、事業期間中に定期的に取り扱うことができた。

以上のことから「食品配布先の拡大のための取り組み」のアウトプットはおおよそ目標通りの水準であったと評価した。

アウトプット(09)	行政との連携拡大のための取組		
	主な活動:①コンソーシアムと行政との連絡会議等の実施、②福祉サービスにつなぐ必要のある世帯の支援について関係諸機関と連携		
指標	初期値	目標	目標達成時期
・連携拡大を図った行政・社協の数(団体数)	FB TAMA:0団体 FB かながわ:53団体 FB ちば:50団体 FB 西埼玉:0団体 FB 山梨:11市町村、14社協	FB TAMA:7団体 FB かながわ:60団体 FB ちば:70団体 FB 西埼玉:なし FB 山梨:20市町村、20社協	2024年3月

これに対して、2023年12月31日時点での実績は、TAMAはゼロの状態から近辺の複数の社協とネットワークを作り、かながわは神奈川県や横浜市とより連携が強化された。ちばや西埼玉はこれまで行政との連携はほとんどなかったが、定期的な情報交換をする場が持たれたり、行政の視察や補助金制度確立等、事業開始前より行政・社協との連携が進んだ。連携する行政・社協の数はFB TAMAが12団体、FB かながわが63団体、FB ちばが62団体、FB 山梨が22市町村17社協であった。以上のことから「行政との連携の拡大のための取組」のアウトプットは概ね目標を達成し、行政との連携が拡大したと言える水準であったと評価した。

なお、西埼玉は目標設定しておらず連携行政・社協の数字は把握していない

アウトプット(10)	食品・外食関連企業(食品メーカー、卸、外食産業など)の食品廃棄量減少のための取組		
	主な活動:廃棄食品を活用して食品配布を進める活動への取り組み		
指標	初期値	目標	目標達成時期
・フードバンクに寄贈した食品の量の約90%(フードバンクかながわの実績値をモデルとする) <sup>1</sup>	事業開始前の企業等からの寄贈食品量を確認	フードドライブ品を除く、企業等からの寄贈食品量を確認後、目標値を立てる	2024年3月

これに対して、2023年12月31日時点での実績は、FB TAMA:年間80t→100tで20t\*0.9=年間18tの減少、FB かながわ:年間210t→330tで120t\*0.9=年間108tの減少、FB ちば:年間73.1t→115.2t

<sup>1</sup> フードバンクかながわは、企業が寄贈した食品がチャリティ(食品を購入して寄贈すること)なのか、廃棄予定食品の寄贈なのかを分析しており、その結果によると、おおよそ寄贈された食品の95%が廃棄予定の食品であることがわかった。また、全国フードバンク推進協議会・米山氏によると、協会が実施した調査や現場感覚からいっても、低く見積もって企業からの寄贈の90%以上が廃棄予定の食品のことだった。

で  $42.1t * 0.9 =$  年間 37.89t の減少、FB 西埼玉:  $2.5t \rightarrow 2.2t$  で  $-0.3t * 0.9 =$  年間 0.27t の増加、山梨: 年間  $80t \rightarrow 182t$  で  $42t * 0.9 =$  年間 37.8t の減少。5団体トータルで年間 201.42t の食品廃棄量減少に繋がった。以上のことから「食品・外食関連企業(食品メーカー、卸、外食産業など)の食品廃棄量の減少」のアウトプットは企業からの食品寄贈量の増加に伴い、企業の食品廃棄量減少に貢献する水準であったと評価した。

## 6-4. 外部との連携の実績

### 1) 外部との連携の実績(事例)

#### (1) 事例1: 三井住友海上火災保険株式会社より食品寄贈

##### ●フードバンク TAMA

JANPIA から三井住友海上火災保険株式会社を紹介いただき、下記食品等の寄贈をいただいた。

寄贈日	寄贈品	寄贈重量(kg)
2021年12月17日	マジックライス	40.0
2022年10月18日	食料品・文具	4.0
2022年11月17日	アルファ米	4.0
2022年12月2日	食品・日用品	41.0
2022年12月6日	保存食	12.0
2022年12月22日	マジックライス	14.0
2023年1月31日	食品	35.0
2023年3月9日	食品	77.0
2023年11月20日	マジックライス	8.0
2023年11月24日	マジックライス	7.0
2024年2月20日	お菓子・おもちゃ	7.0
2024年3月15日	食品	27.0
2024年3月25日	マジックライス	1,456.0

#### (2) 事例2: 三菱UFJ信託銀行より行員によるフードドライブ品の寄贈

##### ●フードバンクかながわ

JANPIA から三菱UFJ信託銀行を紹介いただき、2023年2月に行内でフードドライブを実施し、集まつた食品を寄贈いただく。また、あわせて社内備蓄品の寄贈もいただく。



## 7. アウトカムの分析

本報告書(p11)に掲載のセオリー・オブ・チェンジにある通り、本事業の直接的な対象は「中核的フードバンク(実行団体)」及び「企業」と「支援団体」であり、中・長期的な対象は「利用者」と「社会・地域」である。

本報告書ではまず、非資金的支援の短期アウトカムである「中核的フードバンク(実行団体)」及び「企業・行政・国(管轄省庁)・全国フードバンク事業者」に関するアウトカム評価の結果について述べ、次に、資金支援の短期アウトカムである「企業」及び「支援団体」に関するアウトカム評価の結果について述べる。そして最後に、中・長期アウトカムとして「利用者」及び「社会・地域」のアウトカム評価結果について述べる。

### 7-1. アウトカムの達成度(非資金的支援)

#### 1) アウトカムの計画と実績

##### (1) 中核的フードバンク(実行団体)を対象にしたアウトカムの達成度

まずは「中核的フードバンク(実行団体)」に関して、アウトカムそれぞれの指標や初期値(状態)、目標値(状態)を示し、これに対応した実績及び評価を記述する。

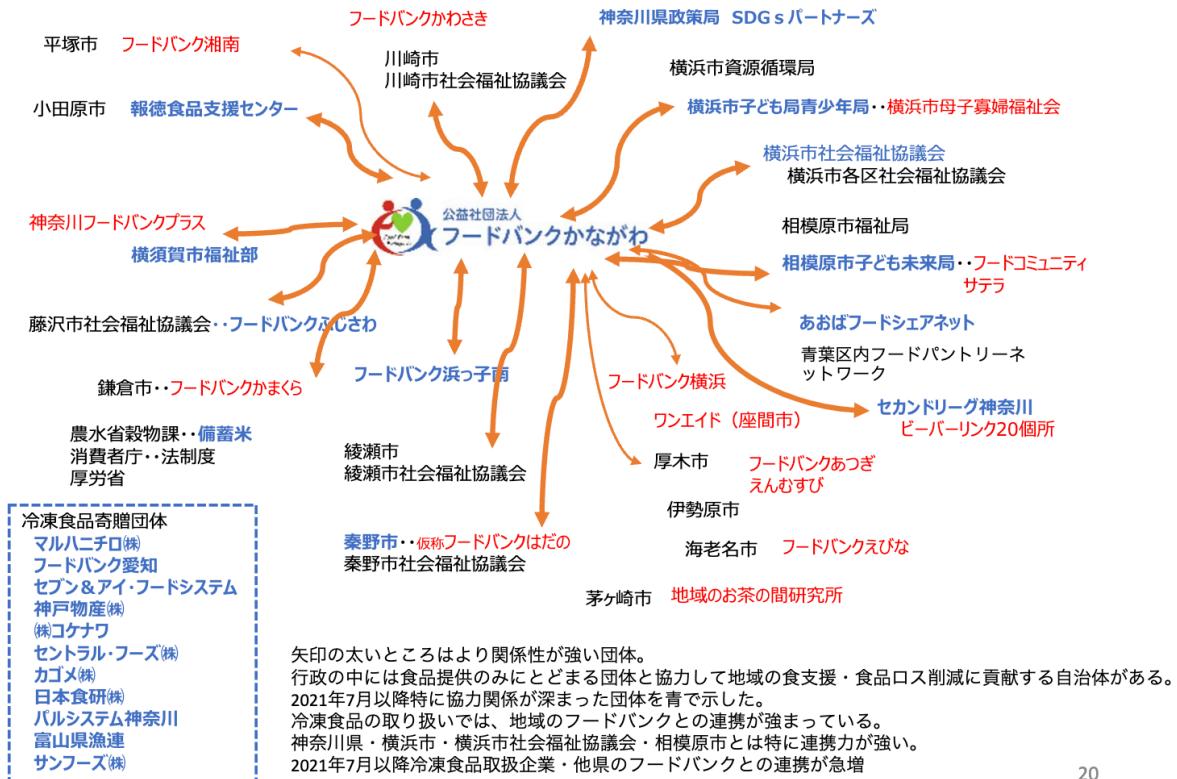
アウトカム(01)	中核的フードバンクのビジョンが固まり、対象地域においてコンソーシアムが設立される		
指標	初期値	目標	目標達成時期
中核的フードバンクの数	0か所	5か所	2022年3月
エコマップ	なし	経年で広がりがある	2024年3月

ビジョンは何か、何ができたか	事業開始前のビジョン	明文化されている	2024年3月
----------------	------------	----------	---------

「(01) 中核的フードバンクのビジョンが固まり、対象地域においてコンソーシアムが設立される」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。

中核的フードバンクの数は、東京都多摩地区、神奈川県横浜市、山梨県南アルプス市、埼玉県所沢市、千葉県千葉市に目標通り5か所に設置された。

エコマップ等による実行団体ごとの連携先の広がりは以下の通りであり、想定通り対象地域での様々な団体・機関との連携が広がっていると評価した。



2021年7月時点で合意書を交わしている団体は239団体だったが、2023年12月359団体となっている。

フードバンクから食品提供	2021年7月	2023年12月
自治体		
社会福祉協議会	56	63
横浜市地域ケアプラザ		
フードバンク		
フードパントリー	183	296
子ども食堂等		
計	239	359

	2021年7月	2023年12月
食品寄贈企業・団体	180	285
うち冷凍食品寄贈企業団体	0	11
冷凍食品提供団体	0	84
パン（山崎製パン）提供団体	0	27

図2. フードバンクかながわの状況

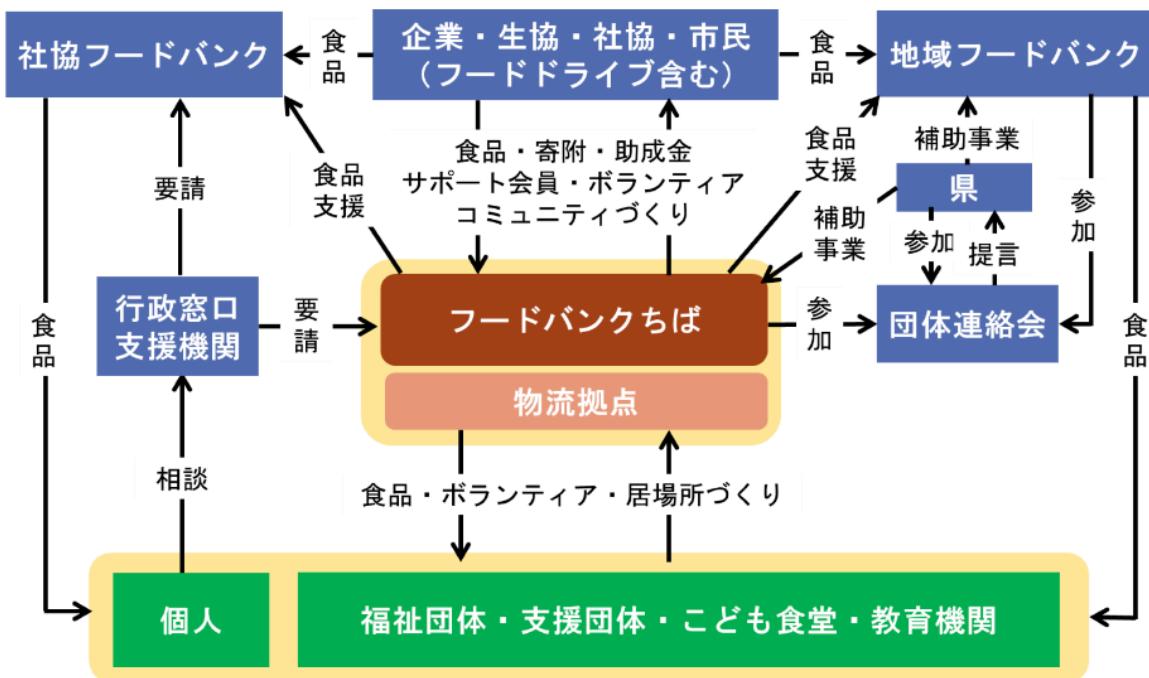


図 3. フードバンクちばの状況

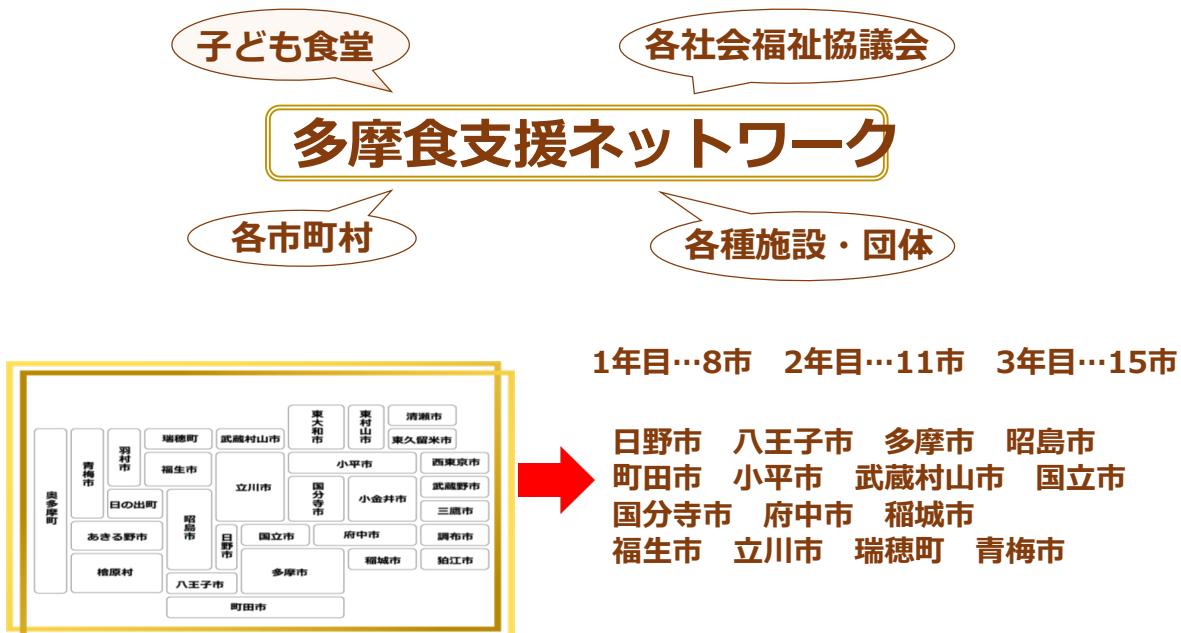


図 4. フードバンク TAMA の状況

## 埼玉県内の17の市町村

約**40**のこども食堂やフードパントリーなどの団体とネットワークを形成



図 5. フードバンク西埼玉の状況

事業以前: 13市町村

2024年3月：19市町村に拡大

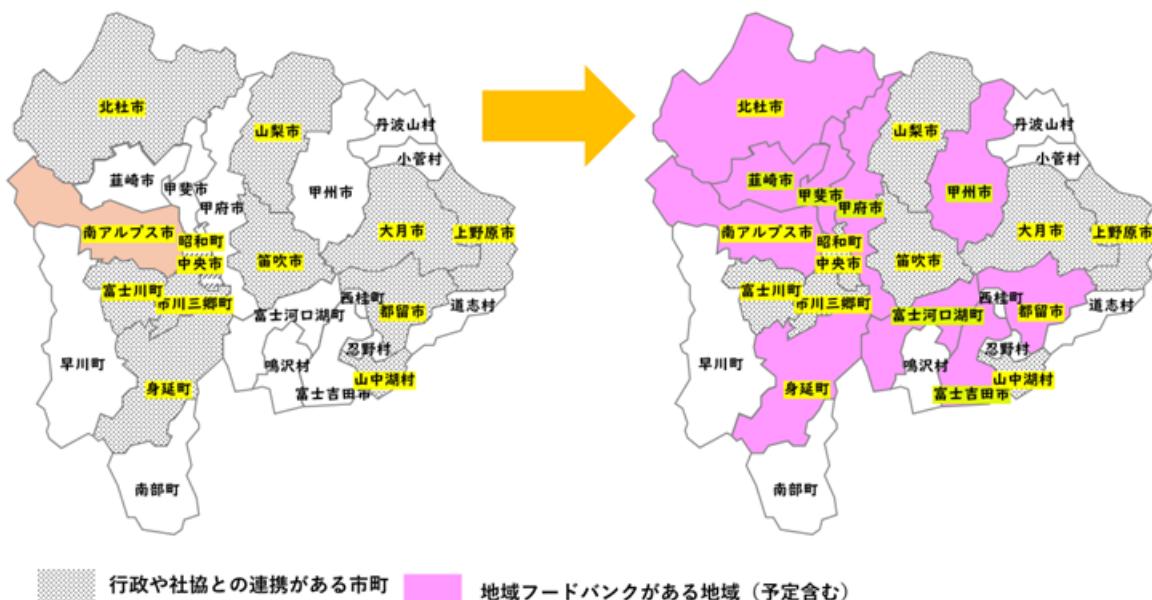


図 6. フードバンク山梨の状況

ビジョンは何か、何ができたかについて、実行団体ごとに明文化されたビジョンは以下の通りである。

## 【フードバンクかながわ】

- ・分かち合い、地域ごとの助け合いの文化、地域との連携を取りながら進めていく
  - ・まちづくり、地域づくりも活動目的の重要な要素である。

- ・フードバンクや子ども食堂と連携して、そのハブとなってフードセーフティネットを構築する

### 【フードバンク TAMA】

- ・食品ロスの受け皿としてのフードバンクの効果・重要性を企業や市民に情報発信を図る。
- ・多摩地域の児童福祉施設・子ども食堂等約 27箇所に定期的に食品提供を行う。
- ・多摩地域におけるフードバンク団体を統合した組織の構築を図ると共にハブ拠点として相談を受け付け、安定稼働するまで適切な食支援を行う。
- ・ひとり親家庭への最も有効なフードパンtryー事業が各市で稼働できるよう働きかけをする。

### 【フードバンクネット西埼玉】

フードバンク活動がない地域には拠点が直接関わっているが、今後も各地域でフードバンク活動が立ち上がるよう働きかけをしていき、ネットワークを広げていく。

それにより、生活者の身近なところでフードロスの取り組みを広げるとともに、寄付された食料の有効活用と暮らしのSOSをキャッチするしくみを地域に広げていく。

### 【フードバンク山梨】

【ビジョン】山梨県内において、生産・流通・消費される食品に係るロス(廃棄)が最小限にとどめられ、それらの過程で発生する余剰食品や寄附食品が、必要とする生活困窮世帯へあまねく送り届けられる仕組みや人的ネットワークを確立すること。

【ミッション】上記の目的を達成するため、当法人が県内外の関係機関や支援者(団体)との連携の輪をさらに広げ、本県フードバンク活動の中核的な役割を果たしていくこと。

### 【フードバンクちば】

- ・働く人が自ら出資し、地域に必要な仕事をおこし、協力し合って働く=協同労働を広げる。
- ・中高年齢者、障害者、生活困窮者など、働きにくさを抱えた人々が、支え合って働き、生活する地域社会をつくる。

以上のことから「(01) 中核的フードバンクのビジョンが固まり、対象地域においてコンソーシアムが設立される」のアウトカムは目標に到達しており、十分に達成されたと評価した。

アウトカム(02)		中核的フードバンクの食品調達力が向上する		
指標	初期値	目標	目標達成時期	
食品調達量	FB TAMA:64t FB かながわ:210t FB ちば:73.9t FB 西埼玉:14.9t FB 山梨:143t	経年で増加、多様化がみられる	2024年3月	
食品配布量(支援量)	FB TAMA:74t FB かながわ:194t FB ちば:53.8t FB 西埼玉:14t FB 山梨:177t	経年で増加、多様化がみられる	2024年3月	

「(02) 中核的フードバンクの食品調達力が向上する」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。

本事業開始時の 2020 年度から 2022 年度にかけての食品調達量は FB TAMA:64t→180t、FB かながわ:210t→365t、FB ちば:73.9t→125t、FB 西埼玉:14.9t→27t、FB 山梨:143t→273t と全実行団体で食品調達量は大幅に増加した。食品配布量(支援量)は FB TAMA:74t→180t、FB かながわ:194t→367t、FB ちば:53.8t→98.2t、FB 西埼玉:14t→21t、FB 山梨:177t→192t。

なお、本事業が開始時の 2018 年度から 2022 年度にかけての中核的フードバンク(実行団体)5団体全体の食品調達量及び食品配布量に関する推移は次の通りである。このグラフから、食品調達量については本事業が開始された後、2021 年度から 2022 年度にかけて調達量の大きな増加があり、食品配布量については 2020 年度及び 2022 年度に大きな増加があったことがうかがえる。

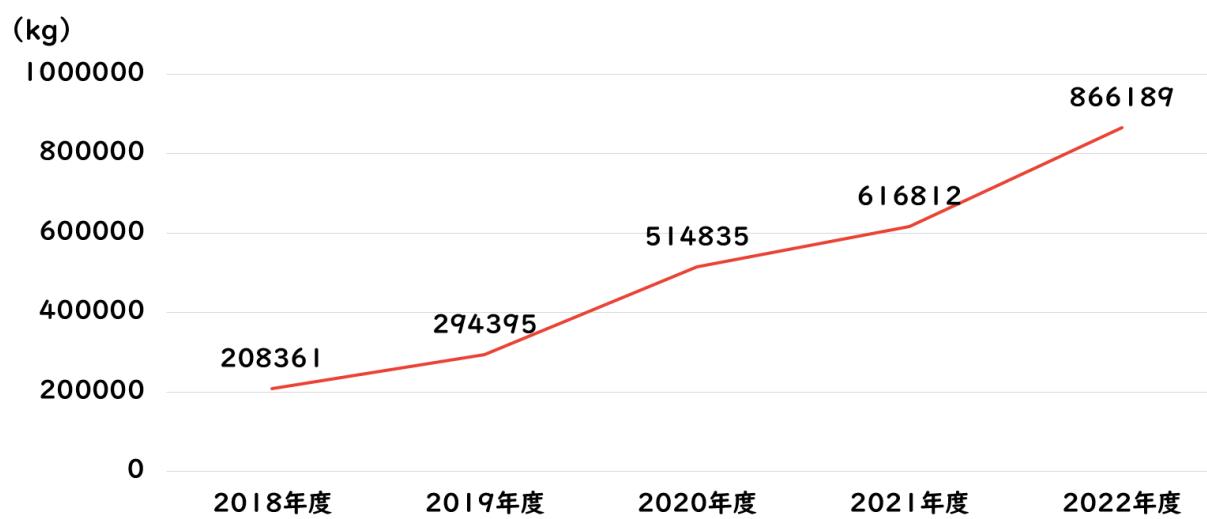
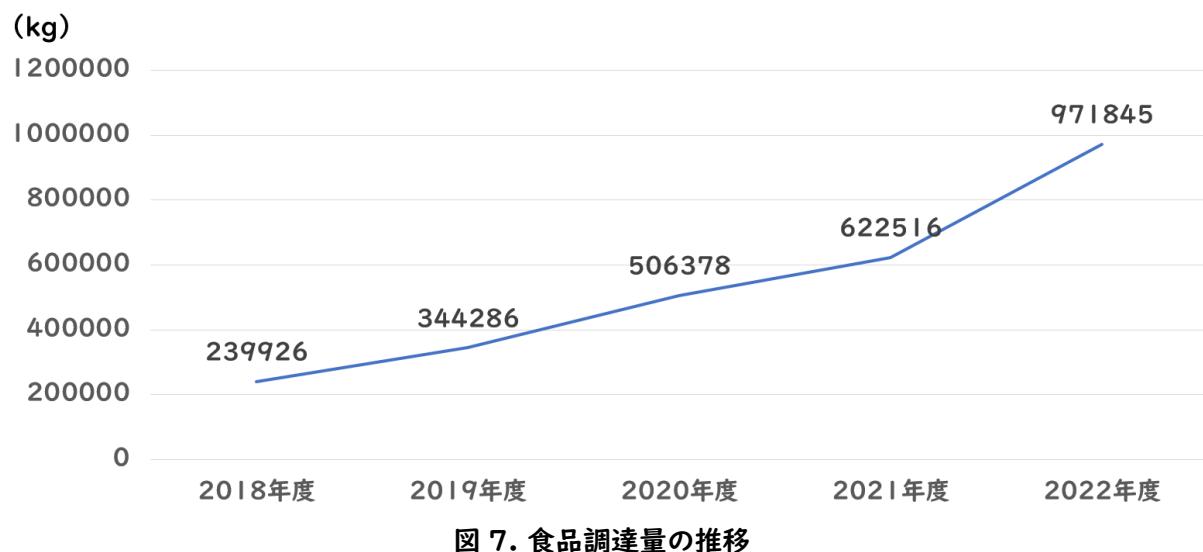


図 8. 食品配布量の推移

調達した食品のバリエーションはかながわ・山梨において冷凍食品の取り扱いが冷凍加工食品、冷凍食材(野菜等)とこれまでには無かった食品を取り扱うことができるようになった。また、かながわにおいては、パンの取り扱いも始まり、調達・提供する食品のバリエーションは多様化したと考えられる。

以上のことから「(02) 中核的フードバンクの食品調達力が向上する」のアウトカムはそれぞれの指標は

目標に到達しており、食品調達力が向上されたと評価した。

アウトカム(03) 中核的フードバンクの財政基盤が強化される			
指標	初期値	目標	目標達成時期
寄付者数	FB TAMA:39 人 FB かながわ:108 人 FB ちば:不明 FB 西埼玉:不明 FB 山梨:1854 人	それぞれの団体に必要な数・額を調達できていること	2024 年3月
寄付金額	FB TAMA:123 万円 FB かながわ:839 万円 FB ちば:89 万円 FB 西埼玉:85 万円 FB 山梨:7155 万円	それぞれの団体に必要な数・額を調達できていること	2024 年3月

「(03) 中核的フードバンクの財政基盤が強化される」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。まず、寄付者数について、FB TAMA は 39 人から 140 人に、FB かながわは 108 人から 348 人に、FB ちばは事後の段階でも不明、FB 西埼玉は不明から 87 人、FB 山梨は 1854 人から 3252 人と多くの団体で増加がみられた。次に、寄付金額について、FB TAMA は 123 万円から 461 万円に、FB かながわは 839 万円から 2942 万円に、FB ちばは 89 万円から 259 万円に、FB 西埼玉は 85 万円から 187 万円に、FB 山梨は 7155 万円から 1 億 77 万円にと多くの団体で増加がみられた。

なお、本事業が開始される前の 2018 年度から 2022 年度にかけての中核的フードバンク(実行団体)5 団体全体の寄付者数及び寄付金額に関する推移は次の通りである。このグラフから、寄付者数については本事業が開始された 2020 年度から大きな増加があり、寄付金額についても同様に 2020 年度に大きな増加があったことがうかがえる。

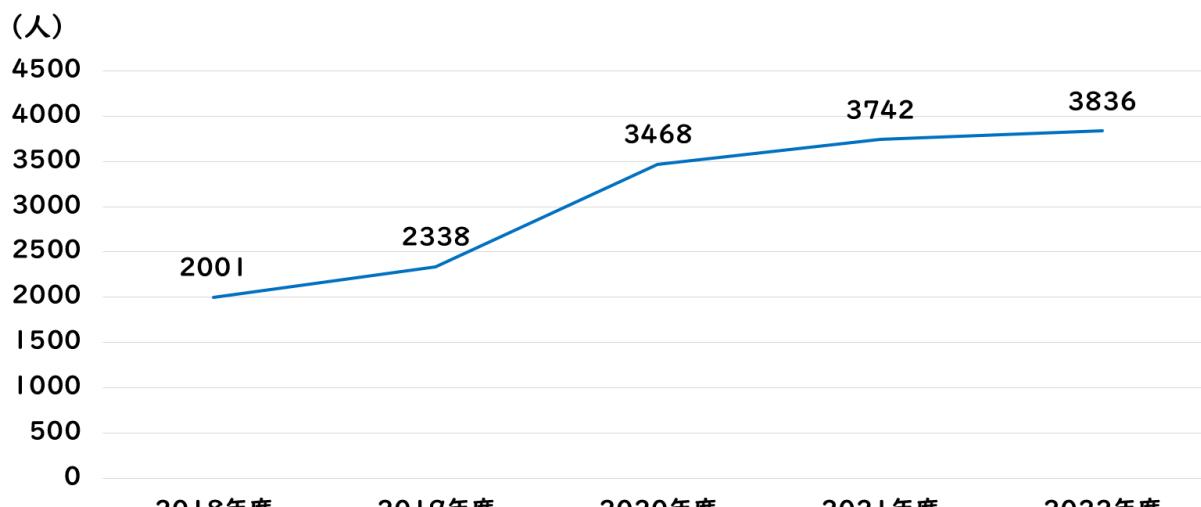
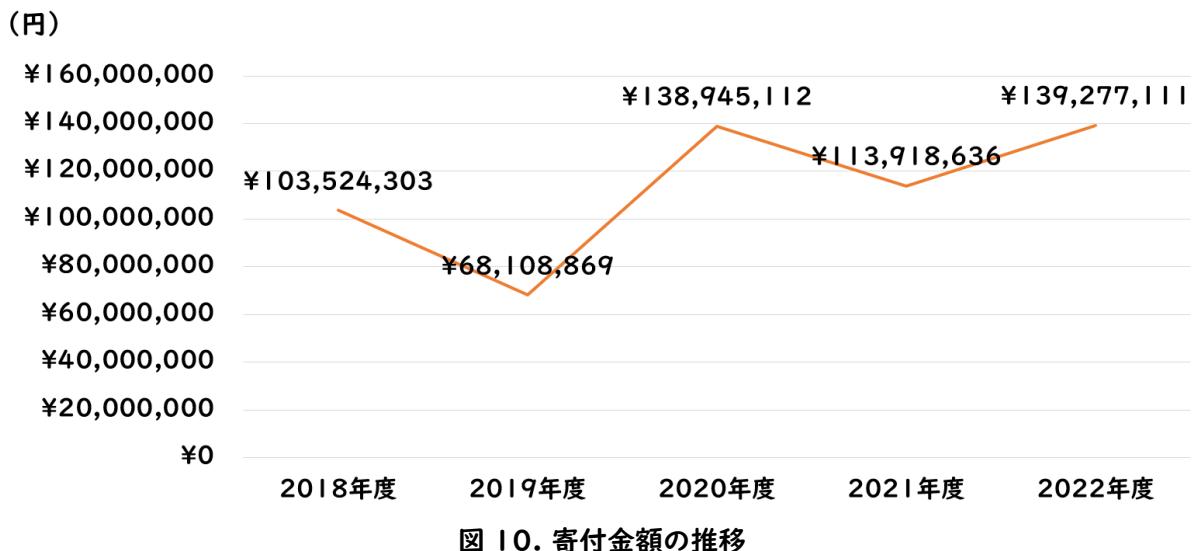


図 9. 寄付者数の推移



以上のことから「(03) 中核的フードバンクの財政基盤が強化される」のアウトカムはおおよそ目標に到達しており、十分に達成されたと評価した。

アウトカム(04)		フードバンクに賛同・協力する企業が増加する		
指標	初期値	目標	目標達成時期	
食品等寄贈企業数	FB TAMA:27 社 FB かながわ:155 社 FB ちば:132 社 FB 西埼玉:35 FB 山梨:63	経年で増加、多様化がみられる	2024 年3月	
企業からの食品等寄贈量	FB TAMA:74t FB かながわ:770t FB ちば:2.03t FB 西埼玉:不明 t FB 山梨:不明 t	経年で増加、多様化がみられる	2024 年3月	

「(04)フードバンクに賛同・協力する企業が増加する」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。

まず、本事業開始時の 2020 年度から 2022 年度にかけての食品等寄贈企業数は、FB TAMA:27 社 →34 社、FB かながわ:155 社 →266 社、FB ちば:132 社 →150 社、FB 西埼玉:35 社 →45 社、FB 山梨:63 社 →121 社であった。また、食品等寄贈量は FB TAMA:74t →180t、FB かながわ:770t →1241t、FB ちば:2.03t →2.18t、FB 西埼玉:変化は不明 t、FB 山梨:変化は不明 t。

全実行団体合計では賛同・協力企業・団体数が増加した。FB 西埼玉及び FB 山梨に関してはデータを得ることができなかったが、倉庫の共同利用で連携できそうな団体が出現したり、物流企業より食品配達の支援の申し出を頂いたり、寄付での支援と、食品寄贈以外の支援の申し出をこの 2 団体も事業期間内に得ており、活動に賛同し・協力する企業が増加したとみなすことができる。よって、「(04)フードバンクに賛同・協力する企業が増加する」のアウトカムは目標に到達しており、達成されたと評価した。

## (2) 企業・行政・国(管轄省庁)・全国フードバンク事業者を対象にしたアウトカムの達成度

次に「企業・行政・国(管轄省庁)・全国フードバンク事業者」に関して、アウトカムそれぞれの指標や初期値(状態)、目標値(状態)を示し、これに対応した実績及び評価を記述する。

アウトカム(05)	企業・行政・国(管轄省庁)・全国フードバンク事業者に中核的フードバンクの意義が伝わり、関心が高まる		
指標	初期値	目標	目標達成時期
コンソーシアム成果報告会への参加者数	なし	20団体以上	2024年3月
コンソーシアム成果報告会に参加した人たちのバリエーション	なし	実行団体所在地内の10団体、所在地外の10団体	2024年3月

「(05)企業・行政・国(管轄省庁)・全国FB事業者に中核的フードバンクの意義が伝わり、関心が高まる」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。

まず、成果報告会へは30団体から30人の方にご参加頂いており、目標である20団体以上を達成した。次に、これらの参加者(団体)は埼玉県や山梨県といった中核的フードバンク(実行団体)が所在する地域のものもあったが、多くは他地域からの参加であり、これも目標である実行団体所在地域外10団体を達成した。一方で、実行団体所在地域内10団体については未達成であった。

以上のことから「(05)企業・行政・国(管轄省庁)・全国フードバンク事業者に中核的フードバンクの意義が伝わり、関心が高まる」のアウトカムは一部未達成ではあったが、アンケート項目「中核的フードバンクの意義を伝えることができたと思いますか?」に対して、アンケート回答者13名中12名(残り1名は不参加でしたが回答された)が「理解できた」と回答した。また、「中核的フードバンクに取り組んでみようと思いましたか?」に対しては、アンケート回答者7名中6名が「はい」と回答した。よって、より多くの団体に参加してもらうという目標は達成できなかったが、参加した団体に対しては、中核的フードバンクの意義を伝え、関心を高めることはできたと考え、設定したアウトカムについておおむね目標に到達しており、達成されたと評価した。

### 7-2. アウトカムの達成度(資金支援)

#### I) アウトカムの計画と実績

##### (1) 企業を対象にしたアウトカムの達成度

まずは「企業」に関して、アウトカムそれぞれの指標や初期値(状態)、目標値(状態)を示し、これに対応した実績及び評価を記述する。

アウトカム(06)	企業に良い変化がみられる		
指標	初期値	目標	目標達成時期
フードロス数	2018年度の値	経年で減少していること	2024年3月
自社がフードバンク等に関する地域住民の理解促進に貢献できているか	なし	多く(80%程度)の企業が「貢献できている」と回答すること	2024年3月

「(06)企業に良い変化がみられる」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。これに対して、企業を対象にしたアンケート調査を行ったところ、フードロス数について回答があったのは次の12社のみであり、その結果は次の通りであった。

なお、経年でデータを得ることができたのはA社、B社、D社、E社、F社、I社、J社であったが、これらの企業では2018年度から2022年度にかけて大きな変化がないか、あるいはむしろ増加させている状況がうかがえた。

表1. 企業のフードロス数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
A社	1.3t	0.9t	0.5t	0.8t	1t
B社	0.7t	7.4t	30.5t	25t	11t
C社	–	–	–	2t	–
D社	1,450t	1,310t	1,280t	1,310t	1,220t
E社	7t	–	10t	18t	30t
F社	–	–	–	200t	240t
G社	–	–	–	–	3,000t 以上
H社	–	60,966t	–	–	–
I社	–	–	1.89t	1.87t	1,92t
J社	–	1.89t	1.87t	1.92t	–
K社	–	–	–	–	0.3t
L社	–	–	–	–	0.1t

次に、「フードバンク等に関する地域住民の理解促進に貢献できているか」を尋ねたところ、回答のあった37社のうち22社(59.5%)の企業が「とても貢献していると思う」あるいは「少しは貢献できていると思う」と回答した。なお、これらの企業の具体的なコメント(抜粋)は表3の通りである。

表2. フードバンク等に関する地域住民の理解促進に貢献できているか

選択肢	N	%
とても貢献していると思う	4社	9.1%
少しは貢献していると思う	18社	40.9%
どちらともいえない	6社	13.6%
あまり貢献しているとは思えない	7社	15.9%
全く貢献しているとは思えない	2社	4.5%
無回答	7社	15.9%

表3. フードバンク等に関する地域住民の理解促進に貢献できていると回答した企業のコメント(抜粋)

- ・企業からの発信はあまりできていないがフードバンク団体のウェブサイトに企業名や写真が記載されることで多少の貢献はできているのではないかと思っている。
- ・社内でフードドライブを行うことにより、フードバンクの活動を(地域住民でもある)社員が知るきっかけになった。
- ・府中市・相模原市のイベント等でフードバンクなどの概要及び活動説明を通じてフードバンクへの理解を深める活動をしている。
- ・当社は沿線で幅広い事業展開をしており、本事業を通じてフードバンクの発信ができるようになったと

感じるから。

- ・ユーコープがフードドライブに取り組み始めたのは 2016 年ですが、以降組合員を中心に、地域の方にも広く寄贈を呼びかけてきたため。
- ・ところざわ俱楽部の活動の中でイベント毎にフードバンクへの食材提供のお願いをしていることは会員に理解されている。
- ・困窮世帯に向けたアプローチができており、また山梨にも食料に困っている困窮世帯の方々が存在していることを理解することで、地域に貢献していると考えている。
- ・イベント時にお客様にフードドライブを呼び掛け、定期的に寄付を行っている。弊社スタッフだけでなく、お客様を巻き込んだ活動を行っているため。

また、食料品を扱う企業2社の担当者を対象にしたインタビュー調査の結果を次に示す。

表4. A 社担当者の回答

**Q. 中核的フードバンク(実行団体)に協力する前後でどのような変化や影響があったか**

- ・従業員に「こういった活動をしている」というのを知らせられる。
- ・社会貢献できている。
- ・(少しはあるが) 食品ロスを減らしているということを周知できる。

**Q. 中核的フードバンク(実行団体)へ食品寄贈の協力をすることになったきっかけについて**

- ・元々 A 社と C 社の取引があった(販売の方で付き合いがあった)。それを通じて営業課の方に話があり、それがきっかけで A 社の方から食品寄贈という仕組みを作らせてもらった。元々 C 社出身の方が中核的フードバンク(実行団体)を立ち上げた。

表5. B 社担当者の回答

**Q. 中核的フードバンク(実行団体)に協力する前後でどのような変化や影響があったか**

- ・中核的フードバンク(実行団体)への寄贈を始める前は冷凍食品を一度にこんなにたくさん受け取ってくれるフードバンクはなかった 2022 年から中核的フードバンク(実行団体)の寄贈が始まって、冷凍食品をある程度まとまった数を渡せるようになった 2023 年度からは毎月の寄付という形のスキームを作ったため毎月 2トンを渡している。
- ・B 社の商品を保管している物流会社の方にもご協力いただいており、物流会社の意識の変化を感じている。この取り組みが令和5年度の消費者庁長官賞いただくことができ、社員のロス削減の意識の向上にも繋がったと感じている。

**Q. 中核的フードバンク(実行団体)へ食品寄贈の協力をすることになったきっかけについて**

- ・中核的フードバンク(実行団体)設立当初、B 社に訪問があり、協力要請をした経緯がある。その際は冷凍食品の取り扱いは難しいという状況だった。その後、2022 年に中核的フードバンク(実行団体)が休眠預金でコンテナと冷凍車を購入したということで、ちょうどその際に冷凍食品を寄付として活用できないかと検討していた物流会社から「中核的フードバンク(実行団体)が休眠預金で設備を整えたからチームを作ってみてはどうか」と仲介があった。その後、B 社と物流会社と中核的フードバンク(実行団体)の3社連携と言う形で取組みを行うことになった。

**Q. 今後、どういった食品、食材をフードバンク団体に寄贈する可能性があるか**

- ・メインでやっているのは B 社(個社)の部分が多いため、今後グループ会社で扱っている商品も含めて展開できないかと思っている。A 社ブランドのものは寄付しているが PB(プライベートブランド)品はまだ寄付するに至っていない。理解・協力が得られればそちらも寄付に回せればと思っている。

以上のように、「フードロス数」及び「フードバンク等に関する地域住民の理解促進に貢献できている割合」とともに目標とした水準に達していないことから、「(06)企業に良い変化がみられる」の達成度は不十分

であると評価した。ただし、フードロス数についてはそもそもデータを得られた企業数が少なく、本事業によって働きかけのあった企業全体でどのような状況だったのかは、いまひとつ正確な実態を把握できなかったというのが実情であった。

一方で、インタビュー調査を実施できた企業2社(いずれも食料品を扱う企業)においては、本事業が開始され中核的フードバンク(実行団体)と協働することで、一定の食品ロスを減らすことができていることが確認された。さらにB社に関しては、今後より積極的な協力を得られる可能性についても示唆されている。

アウトカム(07)		企業価値が高まる		
指標	初期値	目標	目標達成時期	
・企業にとっての良い影響(固定客の増加、企業イメージの向上、顧客の増加)の有無	なし	僅か(10~20%程度)の企業でも「あった」と回答すること	2024年3月	

「(07)企業価値が高まる」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。これに対して、企業を対象にしたアンケート調査を行い、「企業にとっての良い影響(固定客の増加、企業イメージの向上、顧客の増加)について尋ねたところ、回答のあった44社における状況は、「固定客の増加」が2社(4.5%)、「企業イメージの向上」が18社(40.9%)、「顧客の増加」が1社(2.3%)にみられたとのことであった。一方で、「株価の増加」や「売り上げの増加」については全ての企業が「なかった」と回答した。

表6. 企業にとっての良い影響

項目	あった	なかつた
固定客の増加があった	2社(4.5%)	42社(95.5%)
企業イメージの向上があった	18社(40.9%)	26社(59.1%)
株価の増加	0社	44社(100.0%)
売り上げの増加	0社	44社(100.0%)
顧客の増加があった	1社(2.3%)	43社(97.7%)
特になくない	10社	34社(77.3%)

以上のように、特に「企業イメージの向上」についていくらかの企業には肯定的な影響があったことから、「(07)企業価値が高まる」のアウトカムは一定程度目標に到達しており、達成されたと評価した。

アウトカム(08)		企業としてSDGsに貢献できる		
指標	初期値	目標	目標達成時期	
・企業としてSDGsへの取組みをアピールできているか(1点:全く出来ているとは思えない~5点:よく出来ていると思う)	・3.24点	・初期値(事業実施前)に比べて向上している	2024年3月	

「(08)企業としてSDGsに貢献できる」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。これに対して、企業を対象にしたアンケート調査を行い、まずは「企業としてSDGsへの取組みをアピールできているか」についてフードバンクへの協力前後で「1点:全く出来ているとは思えな

い」～「5 点:よく出来ていると思う」を尋ねたところ、回答のあった 37 社におけるフードバンク協力前の平均点は 3.24(標準偏差 1.362) 点、協力後の平均点は 3.65(標準偏差 1.136) 点であった。なお、対応のある t 検定の結果、統計的に有意な差が認められた ( $P=0.000$ ,  $CI=-0.660 \sim -0.151$ )。

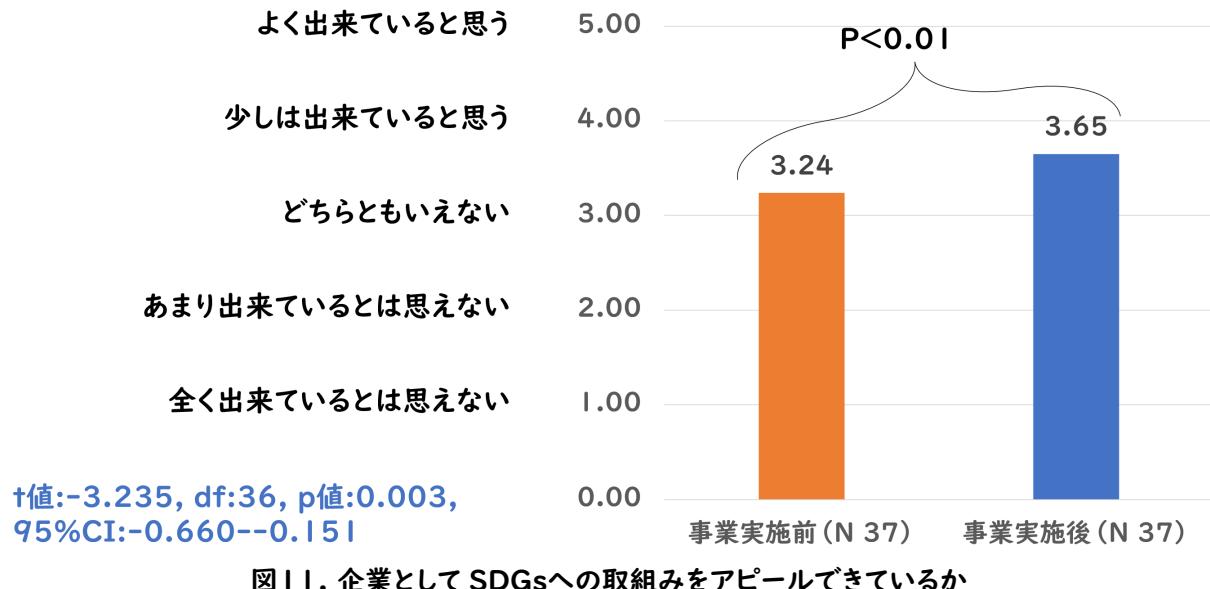


図11. 企業として SDGsへの取組みをアピールできているか

以上のように「企業として SDGs への取組みをアピールできているか」については本事業実施前後でポイントを高めていることから、「(08)企業として SDGs に貢献できる」のアウトカムは目標に到達しており、十分に達成されたと評価した。

## (2) 支援団体を対象にしたアウトカムの達成度

次に「支援団体」に関して、アウトカムそれぞれの指標や初期値（状態）、目標値（状態）を示し、これに対応した実績及び評価を記述する。

アウトカム(09)	支援団体がより良い支援を行えるようになる			
	指標	初期値	目標	目標達成時期
利用者に安定的に食品を供給できるか	3.02 点	初期値(事業実施前)に比べて向上している	2024 年3月	
利用者に有益な情報を提供できるか	2.98 点	初期値(事業実施前)に比べて向上している	2024 年3月	
利用者の相談先として機能できるか(利用者から相談を受けた経験の有無、要支援者を発見した経験の有無、要支援者を適切な機関に繋げた経験の有無)	なし	③こうした経験のある団体がいくつかみられる	2024 年3月	

「(09)支援団体がより良い支援を行えるようになる」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。

これに対して、ネットワーク団体を対象にしたアンケート調査を行い、「利用者に対して安定的に食品を供給できているか」について、本事業実施前後で「1 点:全く供給できていないと思う」～「5 点:十分に供給できていると思う」を尋ねたところ、回答のあった 94 団体における本事業実施前の平均点は 3.02(標準偏差 1.126)点、実施後の平均点は 3.96(標準偏差 0.638)点であった。なお、対応のある t 検定の結果、統計的に有意な差が認められた( $P=0.000$ ,  $CI=-1.194\sim-0.678$ )。

次に、「利用者に対して有益な情報を提供できているか」について、本事業実施前後で「1 点:有益な情報を提供できていると、全く思わない」～「5 点:有益な情報を提供できていると、とても思う」を尋ねた、回答のあった 94 団体における本事業実施前の平均点は 2.98(標準偏差 1.057)点、実施後の平均点は 3.83(標準偏差 0.771)点であった。なお、対応のある t 検定の結果、統計的に有意な差が認められた( $P=0.000$ ,  $CI=-1.080\sim-0.622$ )。

次に、「利用者から相談を受けた経験の有無」、「要支援者を発見した経験の有無」、「要支援者を適切な機関に繋げた経験の有無」を尋ねたところ、回答のあった 93 団体における状況は、相談を受けた経験については 75 団体が、要支援者を発見した経験については 66 団体が、要支援者を適切な機関に繋げた経験については 61 団体が「ある」と回答した。さらに、「公的機関等との連携関係が構築されているか」について、本事業実施前後で「1 点:全く構築されているとは思わない」～「5 点:十分に構築されていると思う」を尋ねたところ、回答のあった 16 団体における本事業実施前の平均点は 3.49(標準偏差 1.034)点、実施後の平均点は 3.87(標準偏差 0.942)点であった。なお、対応のある t 検定の結果、統計的に有意な差が認められた( $P=0.000$ ,  $CI=-0.551\sim-0.215$ )

以上のように、「利用者に安定的に食品を供給できるか」、「利用者に有益な情報を提供できるか」についてはそれぞれ本事業実施前後でポイントを高め、「利用者の相談先として機能できるか」については「利用者から相談を受けた経験の有無」、「要支援者を発見した経験の有無」、「要支援者を適切な機関に繋げた経験の有無」については多くの団体が「経験あり」と回答していたことから、「(09) 支援団体がより良い支援を行えるようになる」は目標に到達しており、十分に達成されたと評価した。

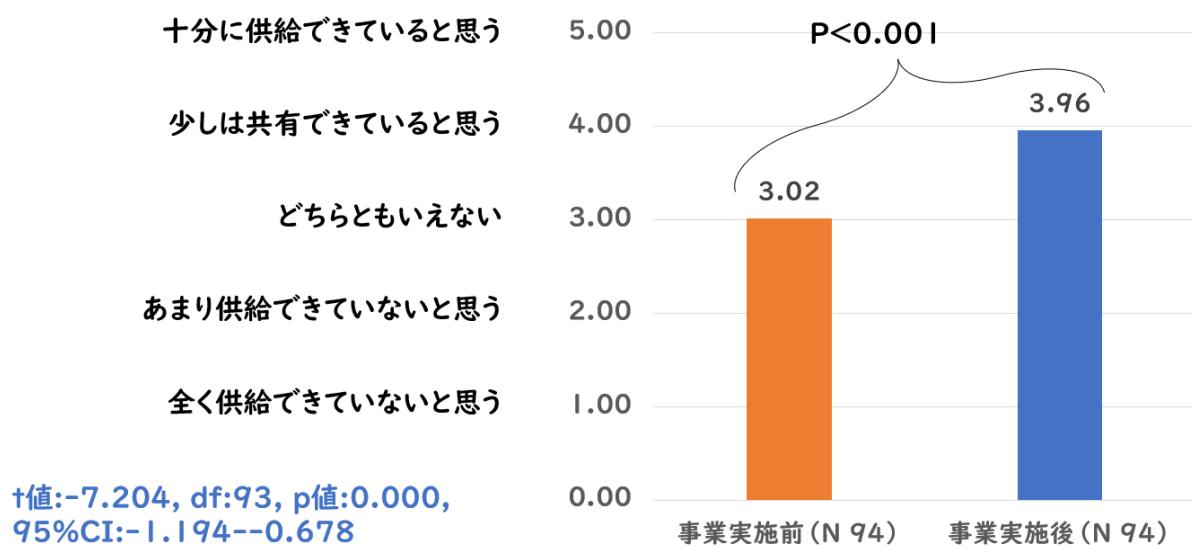


図 12. 利用者が必要としている食品を共有できているか



図 13. 利用者に有益な情報を提供できているか

表 7. 経験の有無

項目	経験あり	経験なし
利用者からの相談を受けた	75 団体 (79.8%)	19 団体 (20.2%)
要支援者を発見した	66 団体 (70.2%)	28 団体 (29.8%)
要支援者を適切な機関に繋げた	61 団体 (65.6%)	4 団体 (34.4%) うち、「そもそもそのような状況になったことがない」が 17 団体、「その他」が 6 団体

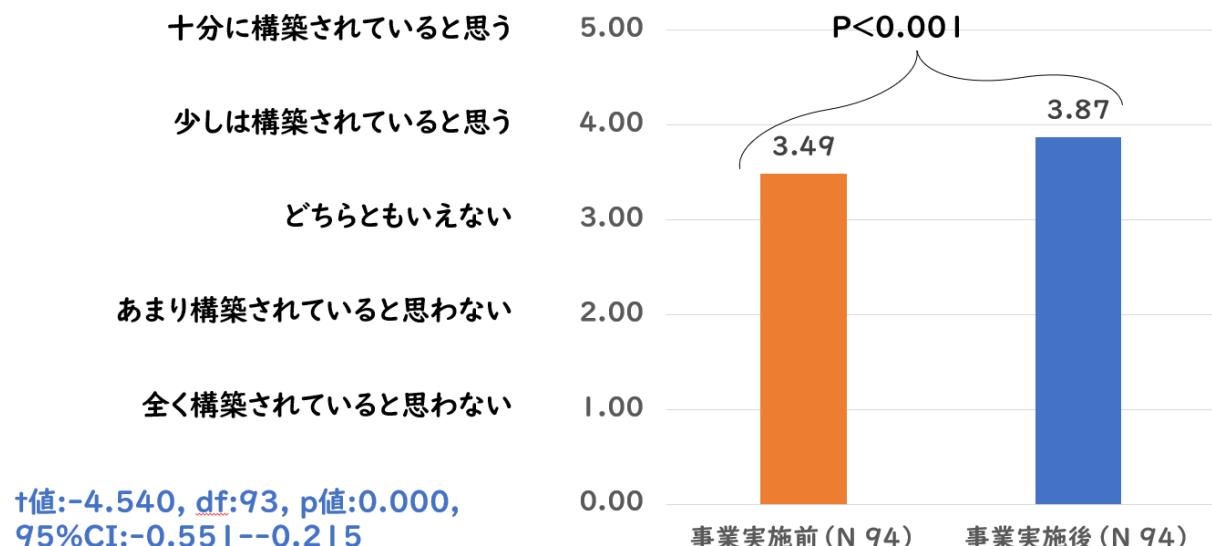


図 14. 公的機関等と連携関係が構築されているか

アウトカム(10)	支援団体の活動が維持される		
指標	初期値	目標	目標達成時期
食品の保管・配送方法の整	なし	事業開始前より改善・	2024 年3月

備状況		向上する	
現在の活動を今後も続けていくことへの自信	なし	多く(80%程度)の団体が「続けていく自信がある」と回答すること	2024年3月

「(10) 支援団体の活動が維持される」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。

これに対して、ネットワーク団体を対象にしたアンケート調査を行い、まずは、ネットワーク団体の取組みを維持・発展するために必要な食品の保管・配送方法の整備状況について「冷凍・冷蔵庫の設置」、「物流会社との協働」、「自前の車両・ドライバーの設置」を尋ねたところ、回答のあった95団体における状況は次の通りであった。さらにこれらについて、本事業を通して整備されたかどうかを尋ねたところ、「冷凍・冷蔵庫の設置」、「物流会社との協働」、「自前の車両・ドライバーの設置」それぞれについて、本事業によって整備された団体があることが明らかになった。特に、「物流会社との協働」に関しては整備されていると回答した9団体のうち、8団体が本事業によって整備が進んだと回答している。一方で、「冷凍・冷蔵庫の設置」及び「自前の車両・ドライバーの設置」については半数強、「物流会社との協働」については僅かな団体しか整備が進んでいない状況が明らかになっており、これらは支援団体が取組みを維持・発展させるうえで大きな課題になっていることがうかがえる。さらに、こうしたことも踏まえて、「現在の活動を今後も続けていけると思うか」について尋ねたところ、回答のあった94団体のうち11団体は「どちらともいえない」、35団体は「続けていく自信が少しある」、48団体は「続けていく自信がとてもある」と回答した。

表8. 食品の保管・配送方法の整備状況

項目	整備されている	整備されていない
冷凍・冷蔵庫の設置	53団体(55.8%) ※このうち34団体は、本事業によって整備された	42団体(44.2%)
物流会社との協働	9団体(9.5%) ※このうち8団体は、本事業によって整備された	86団体(90.5%)
自前の車両・ドライバーの設置	55団体(57.9%) ※このうち30団体は、本事業によって整備された	40団体(42.1%)

表9. 現在の活動を今後も続けていけると思うか

選択肢	N	%
続けていく自信がとてもある	48団体	51.1%
続けていく自信が少しある	35団体	37.2%
どちらともいえない	11団体	11.7%
続けていく自信があまりない	0団体	0%
続けていく自信が全くない	0団体	0%

以上のように、「現在の活動を今後も続けていけると思うか」について、多くの支援団体が「続けていく自信がとてもある」及び「続けていく自信が少しある」と回答していることから、「(10) 支援団体の活動が

維持される」のアウトカムは目標に到達しており、十分に達成されたと評価した。

なお、本事業によって「冷凍・冷蔵庫の設置」、「物流会社との協働」、「自前の車両・ドライバーの設置」が進められたことも、支援団体の活動を維持・発展していくうえで大きな貢献になったものと思われる。

アウトカム(11)		支援団体の活動が多くの利用者に届いている		
指標	初期値	目標	目標達成時期	
支援団体数及び利用者数	33 団体、29,586 人	経年で増加していること	2024 年3月	
利用者に感謝されている、必要とされている実感	なし	多く(80%程度)の団体が「感謝されている、必要とされている」と実感していること	2024 年3月	

「(11) 支援団体の活動が多くの利用者に届いている」というアウトカムについて、上記の「指標」、「初期値」、「目標」をもとに評価した。

これに対して、ネットワーク団体を対象にしたアンケート調査を行い、まずは 2018 年度から 2022 年度にかけて中核的フードバンク(実行団体)に加盟した支援団体及び延べ利用者数を数えたところ、2018 年度は支援団体 33 団体、延べ利用者数 29,586 人だったものが、2022 年度には 80 団体、92,782 人まで増加していることが明らかになった(アンケートに回答がなかった支援団体もあったため、実際の数はこれよりも大きい)。さらに、「利用者から感謝されている・必要とされている時間があるか」を尋ねたところ、回答のあった 94 団体のうち、14 団体は「少しある」と回答し、75 団体は「とてもある」と回答した。

(人)

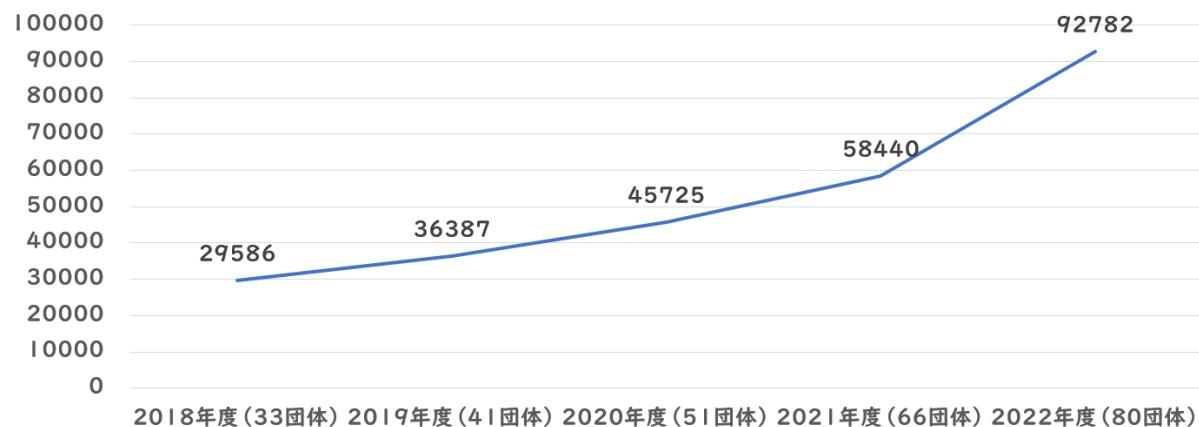


図 15. 支援団体及び延べ利用者数の推移

表 10. 利用者に感謝されている・必要とされている実感

選択肢	N	%
とてもある	75 団体	79.80%
少しある	14 団体	14.9%
どちらともいえない	5 団体	5.3%
あまりない	0 団体	0%
全くない	0 団体	0%

以上のことから「(11)支援団体の活動が多くの利用者に届いている」のアウトカムは目標に到達しており、十分に達成されたと評価した。

### 7-3. 波及効果(想定外、波及的・副次的効果、組織基盤強化、環境整備)

最後に、本事業の中・長期アウトカムとして規定している「利用者」及び「社会・地域」に関して、アウトカムそれぞれの指標を示し、これに対応した実績を記述する。

#### I) 利用者を対象にしたアウトカムの実績

まずは「利用者」に関して、アウトカムそれぞれの指標と現時点での実績を記述する。

アウトカム(12)	利用者に良い変化がみられる
指標	
①食卓に上がる食材の幅	
②食事回数や量	
③お金の余裕(学用品などにお金がまわせる)	
④社会とのつながり(顔なじみのスタッフの有無、困り事をキャッチしてもらった経験、孤独感)	
⑤有益な情報を受け取れるか	

「(12)利用者に良い変化がみられる」というアウトカムについて、上記の「指標」をもとにその実績を記述する。なお、それぞれの指標は支援団体による支援利用前後で利用者にとって良い方向に変化していることを期待している。

これに対して、支援団体の利用者を対象としたアンケート調査を行い、まずは「支援団体による支援を受けたことで食卓に上がる食材の幅が広がったか」を尋ねたところ、回答のあった 492 名中、「広がった」と回答した者が 406 名、「広がらない」と回答した者が 86 名であった。なお、「食材の幅が広がった」の具体的な内容は次の通りである。

表 11. 支援を受けて食卓に上がる食材の幅が広がったか

選択肢	N	%
広がった	86 名	12.6%
広がらない	406 名	59.5%
未回答	190 名	27.9%

表 12. 支援を受けて食卓に上がる食材の幅が広がったか(具体的な内容)(抜粋)

・パスタ
・うどん
・アルファ米、米
・カレー(レトルトカレー)
・スープ
・野菜
・おかし(ゼリーやお菓子等、子供が好む食品)
・ジュース
・冷凍パン
・チーズ
・栄養食品

- ・果物(果物やお菓子は二の次の物となっていて、特に買い控えていたので子供が喜んでいる)
  - ・肉魚野菜を買えるようになった。
  - ・自分ではまず買わない食材をいただける
- など

次に「食事は 1 日 3 食食べられているか」を尋ねたところ、支援前(支援団体による支援を利用前)は「3 食食べていた」と回答した者が全体の 72% だったに対して、支援後は全体の 84% に該当する利用者が「3 食食べられている」と回答しており、状況を改善させていることが明らかになった。

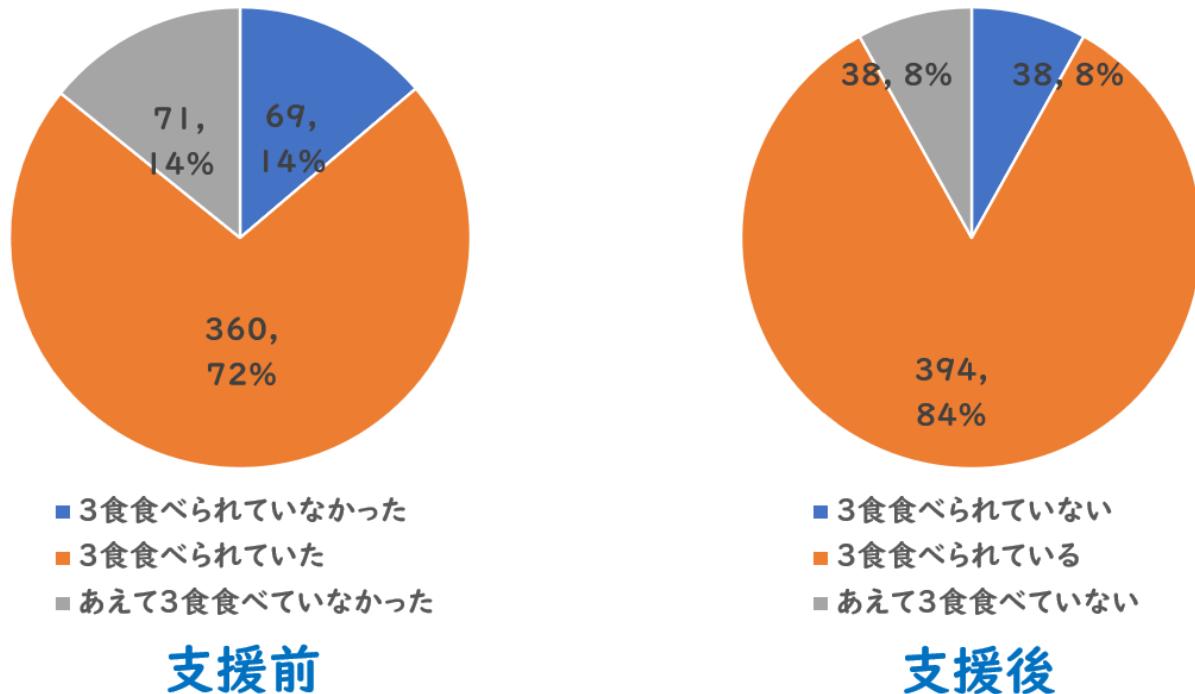


図 16. 食事は 1 日 3 食食べられているか

次に「おやつなど間食を食べることができるか」について、支援前後(ネットワーク団体による支援の利用前後)で「1 点:全く食べていない」～「4 点:よく食べている」を尋ねたところ、回答のあった 467 名における支援前の平均点は 2.77(標準偏差 0.967 点)、支援後の平均点は 3.11(標準偏差 0.792) 点であった。なお、対応のある t 検定の結果、統計的に有意な差が認められた( $P=0.000$ ,  $CI=-0.438 \sim -0.252$ )。

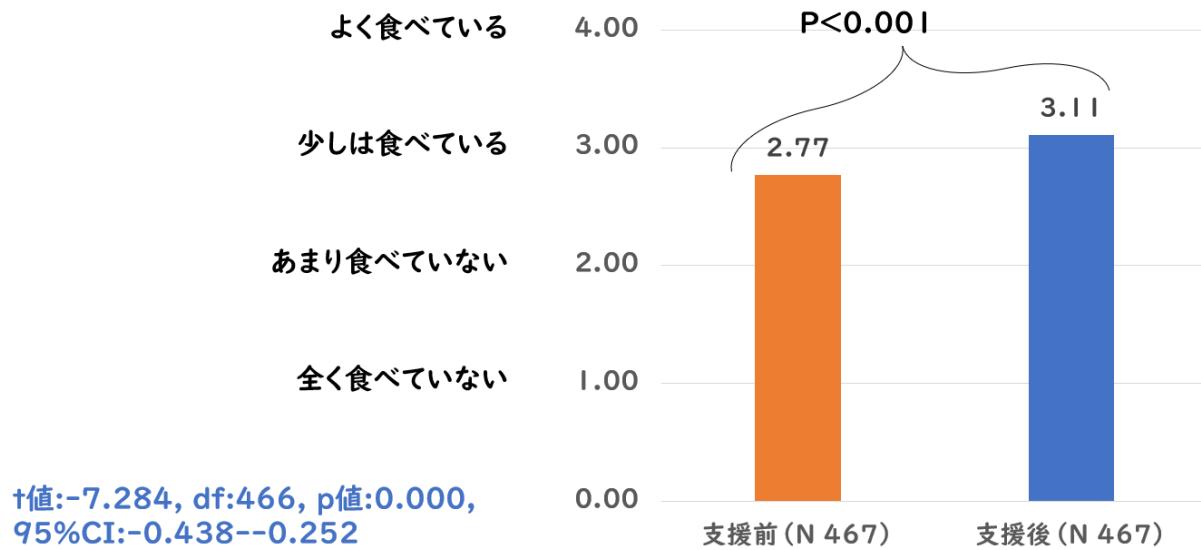


図 17. おやつなど間食を食べているか

次に「ネットワーク団体による支援を受けたことで食事の量は増えたか」を尋ねたところ、回答のあった 513 名中、「少しは増えた」と回答した者が 238 名、「とても増えた」と回答した者が 84 名、「変わらない」と回答した者が 186 名であった。なお、「食事の量が増えた」の具体的な内容は次の通りである。

表 13. 支援を受けて食事の量は増えたか

選択肢	N	%
とても増えた	84 名	12.3%
少しは増えた	238 名	34.9%
変わらない	186 名	27.3%
少し減った	4 名	0.6%
とても減った	1 名	0.1%
未回答	169 名	24.8%

表 14. 支援を受けて食事の量は増えたか(具体的な内容) (抜粋)

- ・いつも食べないお菓子をよく食べるようになった
- ・ちょっとぜいたくできたりした
- ・三食食べている
- ・メニューの幅が広がった
- ・おやつの幅が広かつた
- ・長期休みのカレーがとても助かりました
- ・ごはんの量(お米)
- ・お米が高く、炊いて冷凍で均等量を食していましたが、お米を頂戴すると安心して炊きたてをお釜から直接食べているのでおかわりが出来ます。
- ・お米を食べる回数が増えた
- ・飲み物、お菓子など、買うのか考えていたのが、並ぶ(買う)ようになった
- ・おかずが 1 品増えた
- ・冷蔵庫に何もない時、助かります
- ・少ししか食べられなかつたが支援のおかげで量が増えた
- ・子ども達が、ご飯などおかわりできるようになり、時にはデザートも食べさせてあげられるようになった。

- ・食べ盛りの子どもが、多いでお腹いっぱいいたべれるようになった。  
 ・安心してたくさんお米を食べられることが一番ありがたいです。お菓子も一つ一つ高いので、満足にあげられなかつたのが、今では食べたいの一言で食べられることがありがたいです。など

次に「学用品や洋服等、生活全般に困難さはあるか」について、支援前後(ネットワーク団体による支援の利用前後)で「1点:とても困難がある」～「4点:全く困難はない」を尋ねたところ、回答のあった415名における支援前の平均点は2.41(標準偏差0.869)点、支援後の平均点は2.42(標準偏差0.856)点であった。なお、対応のあるt検定の結果、統計的に有意な差は認められなかった( $P=0.704$ ,  $CI=-0.074 \sim 0.050$ )。



図.18 学用品や洋服等、生活全般に困難さはあるか

次に「ネットワーク団体に顔なじみのスタッフがいるか」及び「ネットワーク団体に困り事をキャッチしてもらったことはあるか」を尋ねたところ、173名の利用者が「顔なじみのスタッフがいる」と回答し、96名の利用者が「困り事をキャッチしてもらったことがある」と回答した。

なお、「キャッチされた困り事」の具体的な内容は次の通りである。

表15. 顔なじみのスタッフの有無及び困り事をキャッチしてもらった経験の有無

項目	いる/ある	いない/ない
顔なじみのスタッフがいるか	173(36.3%)	303(63.7%)
困り事をキャッチしてもらったことはあるか	96(21.5%)	350(78.5%)

表16. 困り事をキャッチしてもらった経験(具体的な内容)(抜粋)

- ・家族との関係性  
 ・生活が苦しい事を理解してもらえず辛かったが話しを聞いてもらえた  
 ・何かを相談して、お話しすることで心が軽くなる  
 ・子どもが学校に行かなくなったこと  
 ・子どもの悩み、進学、相談  
 ・コロナ時の対応等

・少し話すだけで気分が良くなりました  
 ・子ども食堂は生活面で助かっています  
 ・病気や引越し、子どもの悩みなどたくさん聞いていただきました。さらに必要な支援を紹介していただきました。  
 ・娘の成長の悩みや、その他 お金や人付き合いなど  
 ・支援団体へ繋がるまでは、ひとり親の人が保育園にも居る感じもなく、毎日毎日不安でいっぱいでした。共感してもらえる人も近くにも居なかったです。はじめて関わられた会は、「シングルマザー応援フェスタ」です。そちらで会長さんにお会いして、市外の私でも入会いいよ。と言っていただき、繋がることができました。その次の月からは、支援団体でのおしゃべりカフェへ参加させていただき、ひとり親の方や、子育ての先輩方にたくさん話を聞いて、勉強になったり、共感してもらえて、毎月のおしゃべりカフェが楽しみになり、カレンダーでおしゃべりカフェが日に日に近づくのが楽しみになりました。入会してから、食品支援の日には、会長、会員さんに会えて悩みを相談したり、安心できる日が年々増えていきました。コロナ禍では、外出も出来ず、不安でいっぱいだった時にも、グループ LINE で繋がれたり、安心できることも増えました。  
 など

次に「孤独を感じていないか」について、支援前後(ネットワーク団体による支援の利用前後)で「1 点: とても孤独感がある」～「4 点: 全く孤独感はない」を尋ねたところ、回答のあった 426 名における支援前の平均点は 2.62(標準偏差 0.904) 点、支援後の平均点は 2.65(標準偏差 0.902) 点であった。なお、対応のある t 検定の結果、統計的に有意な差は認められなかった( $P=0.465$ ,  $CI=-0.112\sim0.051$ )。



図 19. 孤独感はあるか

以上のように、ネットワーク団体による支援の結果、「食卓にあがる食材の幅」が広がった利用者、「社会とのつながり(顔なじみのスタッフや困りごとをキャッチしてもらった経験)」ができた利用者もそれほど多くはないがいて、利用者の「食事回数や量」、「おやつなど間食を食べる頻度」も改善の傾向がみられた。

一方で「お金の余裕(学用品などにお金がまわせる)」や孤独感については支援前後での変化は確認できなかった。このように、一部変化が確認できなかったものもあるが、利用者の良い変化が一定程度確認できたことから「(12)利用者に良い変化がみられる」のアウトカムは一定程度の到達状況にあると判断した。

アウトカム(13)	利用者の気持ちに余裕が生まれる
指標	
利用者の安心した生活	

「(13)利用者の気持ちに余裕が生まれる」というアウトカムについて、上記の「指標」をもとにその実績を記述する。なお、この指標はネットワーク団体による支援前後で利用者にとって良い方向に変化していることを期待している。

これに対して、ネットワーク団体の利用者を対象としたアンケート調査を行い、「安心した生活が送られているか」について、支援前後(ネットワーク団体による支援の利用前後)で「1点:全く安心した生活が送れていない」～「4点:とても安心した生活が送られている」を尋ねたところ、回答のあった445名における支援前の平均点は2.52(標準偏差0.758)点、支援後の平均点は2.96(標準偏差0.806)点であった。なお、対応のあるt検定の結果、統計的に有意な差が認められた( $P=0.000$ ,  $CI=-0.537\sim-0.339$ )。

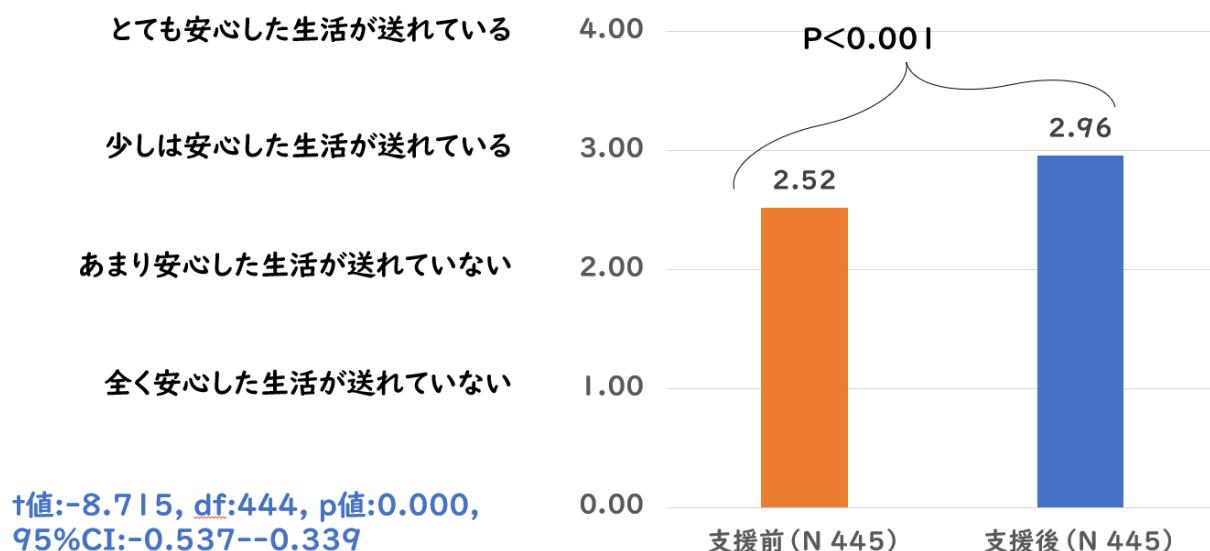


図 20. 安心した生活が送られているか

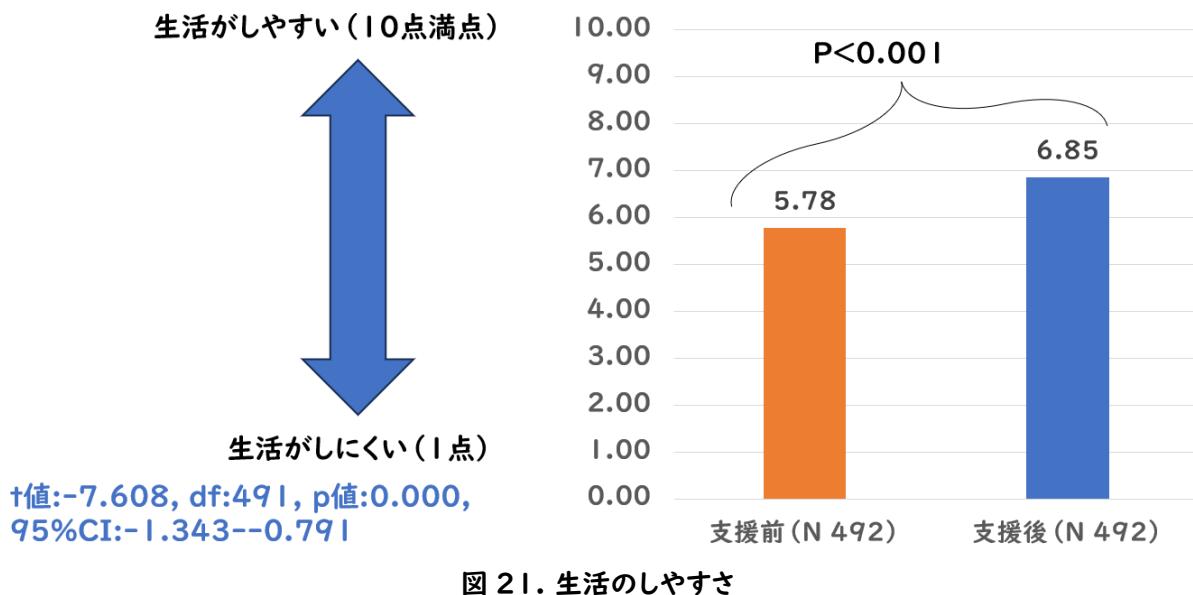
以上のように、支援団体による支援の結果、より「安心した生活」が送られているという回答を得られたことから、「(13)利用者の気持ちに余裕が生まれる」のアウトカムは十分な到達状況にあると判断した。

アウトカム(14)	利用者の家庭内の課題悪化が防がれる
指標	
利用者の生活のしやすさ	

「(14)利用者の家庭内の悪化が防がれる」というアウトカムについて、上記の「指標」をもとにその実績を記述する。なお、この指標はネットワーク団体による支援前後で利用者にとって良い方向に変化していることを期待している。

これに対して、ネットワーク団体の利用者を対象としたアンケート調査を行い、「生活のしやすさ」について、支援前後(ネットワーク団体による支援の利用前後)で「1点:生活がしにくい」～「10点:生活がしやすい」を尋ねたところ、回答のあった492名における支援前の平均点は5.78(標準偏差2.224)点、支援後

の平均点は 6.85(標準偏差 2.518)点であった。なお、対応のある t 検定の結果、統計的に有意な差が認められた( $P=0.000$ ,  $CI=-1.343\sim-0.791$ )。



以上のように、ネットワーク団体による支援の結果、「生活のしやすさ」のポイントが支援前後で向上していることから、「(14)利用者の家庭内の課題悪化が防がれる」のアウトカムは十分な到達状況にあると判断した。

## 2) 社会・地域を対象にしたアウトカムの実績

次に「地域・社会」に関して、アウトカムそれぞれの指標と現時点での実績を記述する。

アウトカム(15)	本事業が先駆的モデルとなり、全国各地で類似事例の実践が始まる
指標	
	本事業の「中核的フードバンク」に類似した取組みを知っているか。
	②(①の問について「知っている」と回答した場合)それはどのような取組みなのか。

「(15)本事業が先駆的モデルとなり、全国各地で類似事例の実践が始まる」というアウトカムについて、上記の「指標」をもとにその実績を記述する。なお、この指標は「知っている」という回答を一定数得されることを期待している。

これに対してコンソーシアム成果報告会参加者を対象にしたアンケート調査を行い、「本事業の中核的フードバンクに類似した取組みをご存知か」を尋ねたところ、回答のあった 13 人中2名が「知っている」と回答した。

なお、回答された2事例は「ミールズ・オン・ホイール」及び「東北フードバンク連携センター」であった。これについて、本事業が先駆的モデルとなり、これらの事業が開始されかまでは判断がつかなかったため、「(15)本事業が先駆的モデルとなり、全国各地で類似事例の実践が始まる」のアウトカム達成状況は不明であると判断した。

## 7-4. 事業の効率性

### 1) 資金分配団体

PO を3名配置し5つの実行団体を担当制(1実行団体に対して主担当と副担当の2名体制)とすることで、実行団体が本事業の活動を効率的・効果的に実施するための監理監督、伴走支援することができた。

実行団体ごとの課題を洗い出しそれを解決すべく伴走支援を外部のフードバンク団体の専門家として、一般社団法人全国フードバンク推進協議会・米山氏に業務委託を行ったため、専門家の目線で実行団体ごとの課題解決と組織基盤整備を進めることができ、効率的な実行団体への伴走支援実現にも寄与した。

各実行団体内に足りていない専門家(評価、クラウドファンディング、ファンドレイジング等)のニーズを汲み取り、適した外部の様々な領域の専門家を紹介することで、実行団体の業務遂行が速やかに進められた。

また、毎月の資金分配団体・実行団体の定例会、実行団体同士で事業を通じて目指す姿を共有する意見交換会、毎年度次年度に向けた継続審査の実施は、前年度の振り返りと課題確認、次年度に向けた計画とそれに向かって取り組みを審査会の目で定点観測ができ、実行団体が計画的に、また、想定外の事象があった場合でも軌道修正して取り組むことに効果的だった。

### 2) 実行団体

助成金の大半は、自己資金ではとても賄えない設備(大型倉庫、冷蔵庫、冷凍庫、配送料用車両等)に投資することができ、ハード面において大きなイニシャルコストをかけずに事業整備・拡大することができた。

ソフト面については、資金分配団体が派遣したフードバンク専門家による実行団体ごとの課題解決、組織基盤整備は事業終了後にも資産として残る価値のある伴走支援であった。これにより、実行団体の事業構造が整備され、これまで以上に事業を遂行することができるようになった。

また、事業終了後の事業の持続可能性に課題のある実行団体においては、ファンドレイジングおよびクラウドファンディングの専門家を派遣することで、これまで不慣れな領域でも専門家の伴走支援を通じて経験値を積むことができた。これは事業終了後の事業運営の大きな糧になったと実感している。

## 8. 成功要因・課題

### 1) 成功要因

#### (1) 中核的フードバンクとしての機能を保有・強化するための設備投資

5つの実行団体において、資金支援の使途の多くは、設備投資であった。

これによって中核的フードバンクとして必須のハード整備を進められ、休眠預金の助成金規模の大きさが要因と考える。

フードバンクちばでは、運搬用の車両購入、食品の在庫管理システム開発に、フードバンクネット西埼玉では、新規の倉庫確保、運搬用車両リース契約に、フードバンクかながわは、運搬用車両(パン、冷凍車)購入、利用団体に貸与する冷凍ストッカー購入に、フードバンク山梨は、倉庫棚等備品、冷蔵庫購入、精米機購入に充てた。

助成金以外の資金としては、フードバンク山梨が、事業期間中にクラウドファンディングを活用して資金調達をし、大型の倉庫を建設し、運用を開始した。フードバンクかながわでは、独自の営業活動により、大型コンテナ型の冷凍庫や精米機を寄贈してもらった。フードバンク TAMA は、独自に追加で倉庫を確保した。

このように、実行団体が積極的に倉庫や運搬車両、冷蔵・冷凍庫等の中核的フードバンクとしての機能を発揮するための設備を確保したことで、これまで以上の量の食品等を受け入れる環境が整い、地元の食支援団体へ配達する環境が整備された。

#### (2) 外部専門家による伴走支援(組織基盤強化)

フードバンク専門家による、実行団体が中核的フードバンクとして機能していくための課題抽出とそれに基づいた伴走支援を実施。

中核的フードバンクとして整備されるべき項目を定義し、初めに実行団体自らがそれらの項目が自団体の現状と照らし合わせて整備できているかセルフアセスメントを行う。それを基にフードバンク専門家との会話で課題を明確にして、解決する優先順位をつける。その後に実行団体ごとに伴走支援計画を策定し、伴走支援に入っていった。

優先課題は何か、それをどのように解決していくか、実行団体と伴走支援者がじっくりと議論をして、合意を得ることを重視した丁寧な伴走支援計画策定を心がけた。

そのことで実行団体も課題解決に向けて意欲的に向き合うことができ、進捗することができたと考える。

また、各種外部専門家の伴走支援を実施。評価、ファンドレイジング等外部専門家の活用について、実行団体から紹介依頼を受け適任と思われる専門家を紹介するケースと、資金分配団体が事業終了後の自走時期に順調に移行していくために必要と考え、外部専門家を派遣するケースの2通りがあった。

フードバンク山梨では、大型倉庫建設のためのクラウドファンディングを立ち上げ、その伴走支援としてクラウドファンディングの領域で第一線を走っている鎌倉幸子氏を紹介し、クラウドファンディング立ち上げから期間終了まで伴走支援をいただいた。

フードバンクネット西埼玉、フードバンク山梨、フードバンクかながわ、フードバンクちばでは、評価アドバイザーとして評価設計から調査、分析、評価報告書作成のアドバイスができる評価の専門家を紹介。

フードバンクネット西埼玉においては、事業終了後の事業運営の持続可能性を高めるために、資金調達のノウハウを団体に伝授するため、クラウドファンディングを立ち上げ、その伴走支援としてファンドレイザーの鎌倉幸子氏を資金分配団体から派遣。また、法人開拓を目的に、アタックリスト整備、営業資料整備、

アポイント取り、営業訪問の一連を団体スタッフと一緒に進めるため、ファンドレイザーの今井洋史氏を同じく資金分配団体から派遣した。

また、伴走支援の中で組織基盤整備の一環として、これまで不整備であった各種規定類が整備されたことで、団体の信用力が高まり、企業や行政との連携に向けた話が始まるきっかけとなった。

このテーマ特化型の専門家派遣による伴走支援は、事業終了後も、団体が継続してファンドレイジングを実行し、組織基盤を強化することに繋がる。

## 2) 課題

### (1) 連携可能な企業の開拓が思うように至らなかった

資金分配団体独自、また JANPIA との協働での連携可能な企業開拓が思うように進まなかった。実績としては、JANPIA との協働では、金融機関 1 社から社内備蓄品寄贈、社内フードドライブ実施による食品寄贈、社員ボランティアの協力を得られた。

連携可能な企業として、社数は少ないが食品寄贈協力企業の開拓はあったが、物流面で連携できる企業の開拓には至らなかった。

物流関連企業の開拓は、実行団体独自に取り組んでおり、フードバンクちばにおいて 1 社物流企业の連携が始まった。

### (2) 評価を事業運営に活かしきれなかった

「評価」に対する本質的な知識やその利活用についての理解が進まず、評価が目標に対して達成したか否かで收れんてしまい、その後の業務改善等に活かすことがなかなかできなかった。

休眠預金事業の評価の位置付けから、どうしても目標に対してどうだったかという結果を追うことに重点が置かれ、それを持って 3 年間の事業について説明責任を果たすことに終始していたが、中間評価、事後評価の結果を踏まえて、実行団体においては事業終了後も定期的に評価の観点で事業を振り返り、事業改善に活用してもらいたい。

## 9. その他、深堀検証項目

### 1) 「中核的フードバンク」の概念がある程度確立された

これまで小規模なフードバンクでは受け入れできなかったロット数の大きな食品を受け入れることができ、それを地域のフードバンクや子ども食堂等の食支援団体へ提供し、より多くの最終受益者へ支援が届くといった、「中核的フードバンク」に必要な設備や機能、それを運営するための団体としての基盤整備等について、今回の休眠預金事業を経てその概念がある程度確立されたと考える。

### 2) 行政や省庁においても中核的フードバンクへの支援、協働の動きが出てきた

農水省においては、未利用食品のフードバンクへの提供等を通じた食品ロス削減を推進するため、その受け皿となる大規模かつ先進的な取組を行うフードバンクへの支援が始まった。

また、生活困窮者支援の観点からも、広域に連携を取り組んでいる先進的な取り組みを行うフードバンク団体への支援も始まった。その中で、「先進的な取り組み例」として以下があげられているが、これらはまさに「中核的フードバンク」が発揮する機能そのものであり、農水省の中核的フードバンクへの支援の動きが出てきていると言える。

- ・広域な連携: 県域を跨いで、多くの企業から食品を受入れ、多くの施設等へ提供
- ・プラットフォームの構築: 企業から寄附の相談を一括して受け付け、各地のフードバンクの中から適した提供先を調整
- ・マッチングに特化した活動: 食品の受入れ・保管を自らは行わず、食品の寄附を行う食品企業と、食料支援を求める子ども食堂等とのマッチング
- ・企業・行政とのコーディネート: 企業や地方自治体とフードバンクの連携強化により、継続的な食品受け入れや、食料支援を必要とする者を適切に把握
- ・農業者との連携: 生産者団体と連携して生産段階で発生する規格外の農産物等を受入れ

\*農林水産省 HP より引用

[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/foodbank.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank.html)

また、実行団体の「フードバンクかながわ」が所在する神奈川県においては、令和 6 年第 1 回定例会において、一般質問「冷凍食品のロス削減と困窮者等支援の取組について」県知事の答弁において「中核となるフードバンクを中心に、企業への食品寄付や売上連動型寄付の働きかけや子ども食堂等への繋ぎ等、新たなネットワークづくり、また、中核的フードバンクへの財政面での支援も実施する」と議会での発言があった。

\*神奈川県議会インターネット議会中継

[https://kanagawa-pref.stream.jfit.co.jp/?tpl=play\\_vod&inquiry\\_id=3330](https://kanagawa-pref.stream.jfit.co.jp/?tpl=play_vod&inquiry_id=3330)

同じく実行団体の「フードバンクちば」が所在する千葉県においては、食料品等の物価高騰による県民生活への影響が続く中、生活に困窮する家庭や福祉施設等への食料支援を行うフードバンクの役割が一層重要になっていることから、食料品の受け入れや提供を拡大するフードバンクへの補助が令和 5 年に実施された。

このように、当該休眠預金事業期間中に、省庁や地方行政が中核的フードバンクの社会的意義を理解し支援をしていく動きが出てきたことは注目に値する。

## 10. 結論

### 10-1. 社会的インパクト評価の構成要素別自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
(1) 課題やニーズの適切性				○	
(2) 事業設計の整合性				○	
(3) 実施状況の適切性				○	
(4) 事業成果の達成度				○	

上記の表にある通り、本事業における社会的インパクト評価の構成要素別自己評価の結果は「(1)課題やニーズの適切性」を想定した水準にある、「(2)事業設計の整合性」を想定した水準にある、「(3)実施状況の適切性」を想定した水準にある、「(4)事業成果の達成度」を想定した水準にある」とした。

これらの判断根拠については次に述べるが、「(1)課題やニーズの適切性」及び「(2)事業設計の整合性」については事前評価、中間評価時の報告書を参照頂きたい。

### 10-2. 自己評価の判断根拠について

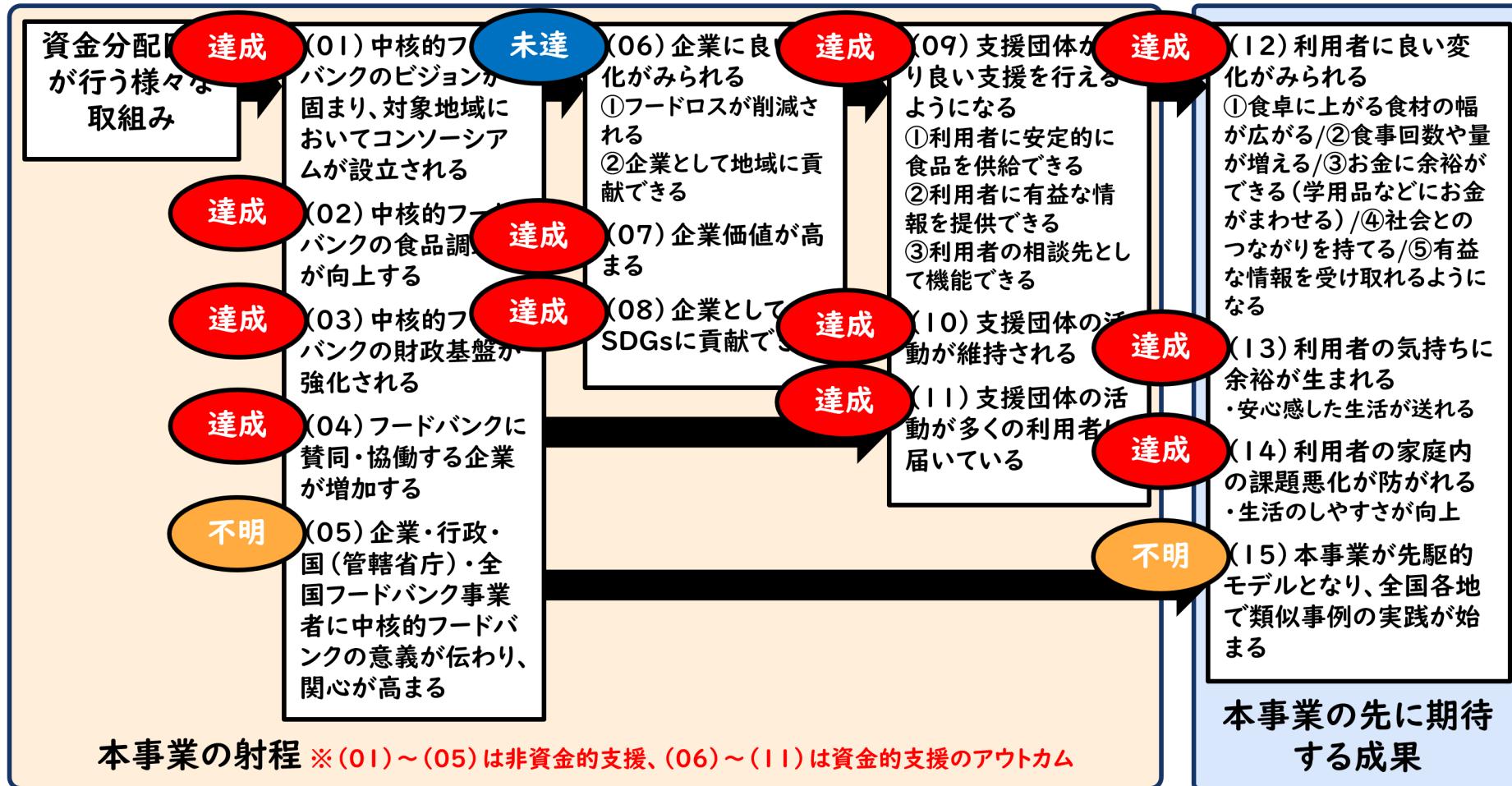
まず、「(3)実施状況の適切性」については、本報告書「6.事業の実績」を基に評価した。はじめに、「6-1.インプット(p16)」でも言及した通り、経費や自己資金については当初計画通りに執行した。次に、「6-2.活動とアウトプットの実績(pp17~22)」に言及した通り、本事業における活動とアウトプットの実績は全体的に十分な水準で行った。以上のことから、本事業における「(3)実施状況の適切性」は「想定した水準にある」と評価した。

次に、「(4)事業成果の達成度」については、本報告書「7.アウトカムの分析」を基に評価した。本報告書「4.包括的支援プログラム概要(p11)」のセオリー・オブ・チェンジ(図1)に示した通り、非資金的支援・資金支援合わせて11個の短期アウトカムを設定しており、4個の中・長期アウトカムを設定している。本報告書「7.アウトカムの分析」で言及してきたように、セオリー・オブ・チェンジに規定した15個のアウトカムの全体的な達成度は高い(図12)。以上のことから、本事業における「(4)事業成果の達成度」は「想定した水準にある」と評価した。

## 活動(事業内容)

## 短期アウトカム

## 中期・長期アウトカム



本事業の射程 ※(01)～(05)は非資金的支援、(06)～(11)は資金的支援のアウトカム

図 22. セオリー・オブ・チェンジとアウトカムの達成状況

## III. 本事業で取り扱った活動を発展させるための提言

### 1) 地域の食支援団体を支える役割を担う「中核的フードバンク」のニーズがあること、そしてその役割を担うことが可能であることが、この3年間の事業遂行で確認できた。

助成金を規模の大きな設備等に投入することで、イニシャルコストを抑えて、より多くの食品を取り扱うことができる環境整備を早期に実現できたことが大きい。

※受け入れるキャパが増える、提供できる食品量が増える、受け入れる食品が多様化する、提供できる食品が多様化する。

ただし、中核的フードバンクを事業継続していくには相当なリソースが必要であり、それらをフードバンク団体だけで全てを確保し事業拡大・継続に繋げていくことは困難である。

休眠預金事業終了後、各実行団体は、倉庫や冷蔵・冷凍庫等を企業や行政等との連携で無償あるいは安価で調達する努力が必要であり、財源についても、個人・法人等の寄付や各種補助金、助成金、行政からの委託等、団体の方針や志向に合致した財源をバランスよく調達していく必要がある。

また、自治体、企業、非営利団体とマルチセクターによる事業体での運用モデルが今後できるのも期待したい。

それには、多様なステークホルダーを一緒の方向性に向かって事業を推進していくコーディネートする機能も求められ、それらを担う人材獲得や育成が中核的フードバンクには必要であり、

### 2) JANPIAとの連携強化

食品、資金、ボランティア、自社サービスでの支援(物流、倉庫、冷凍庫等)は中核的フードバンクにとってもニーズは大きい。

食にまつわる支援ができる・希望する企業とのマッチング等で、もっと JANPIA と連携できるのではないかと感じている。

経団連等経済団体加盟企業と直に接点が持てる機会提供や JANPIA との密な連携が取れる仕組みの構築を JANPIA と一緒に構築していきたい。

### 3) 中核的フードバンク団体が取り扱う「米」の安定的な確保に向けて

フードバンクには多様な食品が集まるが、受益者にとって一番ニーズの高い米については、ますます支援者が増加する中で、需要に見合った量を確保することが難しい。実行団体の中には、フードドライブで一般市民から家庭の米を寄贈してもらう一方、定期的に米を購入して食支援団体へ提供していた事例もある。

これらを是正するための案として、国や地方自治体が一定程度確保している備蓄米を入れ替えるタイミングでのフードバンクへの寄贈や、流通が難しい状態の古米等の活用、また、米農家との連携によるフードバンクへの寄付促進が図られると、この課題が多少なりとも解消されると考える。

## 12. 知見・教訓

本事業を通じて、中核的フードバンクの創設に必要な条件、創設のステップが明らかになったことが大きな知見である。

つまり、第一に、中核的フードバンクとなる団体の条件として、フードバンク活動実践に加えて、ある程度の組織基盤(応募時点での事業規模、職員数、活動実績等)と明確な将来ビジョン(助成期間終了後の出口戦略を含む)が必要であることが明らかになった。

第二に、中核的フードバンクの創設には、初期投資としてのハード整備(倉庫、冷蔵・冷凍庫、配送車両等)が必須であり、かつ有効であることがわかった。本事業においては、これらのハード整備を休眠預金でまかなったが、今後各地で中核的フードバンクを形成するには、初期投資の費用について、公的な資金の投入が期待される。

第三に、規程類の整備や情報公開等のガバナンスを整えることが、企業や行政からの信頼の確保につながり、中核的フードバンクとしての位置づけを地域で獲得することに役立った。本事業における実行団体は休眠預金事業として国民への説明責任を果たすために規程類の整備などに取り組んだが、その効果として社会からの信頼を集めることができたことは、ガバナンス整備の重要性に関する教訓となった。

第四に、将来にわたり中核的フードバンクとしての活動を維持、さらに規模拡大するためには、事業規模の拡大に伴い増加する固定費を確保できるよう、団体独自に資金等リソースを調達する力やそれを実行する労力を発揮する団体としての組織基盤が必要であることが明らかになった。継続的な組織基盤整備が必要なことは、将来にわたり、課題として残っている。

最後に教訓として、本事業の実施を通じ、資金分配団体としての目利き力をさらに高める必要性を感じたことを付言する。コロナ禍での審査であったため、団体面談がままならなかった。二次審査でオンラインプレゼンテーションを実施したが、団体の総合的な力量(応募団体の現時点の実力、将来のポテンシャル等)を推し量るには、更なる改善を図っていきたい。団体トップの事業へのコミットメント、組織風土、スタッフの働きぶり、立地条件、地域コミュニティとの関係等の、団体訪問でしか計れない情報をどのように吸い上げ、審査に反映していくか。「一次書類審査で絞り込んで、二次審査前に事務局団体訪問をいれる」、「応募条件として、応募前のロジックモデル策定のワークショップ出席を必須とする」等、工夫はあると思う。これらの案も、結果として、時間とコストを必要とし、実行団体の事業期間を短縮させるというデメリットもあることとの比較考量を加えつつ、審査プロセスの改善の検討材料となるかもしれない。休眠預金事業という大規模助成において、資金分配団体としての責任を果たすために、さらなる工夫を検討していくたい。

## 13. 資料

### 1)企業を対象にした調査(アンケート票)

<p><b>(休眠預金事業:PRF)中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業《ご協力企業様向け調査》</b></p> <p>*必須の質問です</p> <p>まず、貴社のSDGsへの取組みについておうかがいします。</p> <p>1. 問1-1.企業としてSDGsへの取組みをアピールできていると思いますか。 *</p> <p>1つだけマークしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> ①良く出来ていると思う <input type="checkbox"/> ②少しは出来ていると思う <input type="checkbox"/> ③どちらともいえない <input type="checkbox"/> ④あまり出来ているとは思えない <input type="checkbox"/> ⑤全く出来ているとは思えない</p> <p>2. 問1-2. (問1-1の設問に重ねておうかがいします) 本事業（中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）に協力する前はどうだったでしょうか。企業としてSDGsへの取組みをアピールできていたと思いますか。</p> <p>1つだけマークしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> ①良く出来ていたと思う <input type="checkbox"/> ②少しは出来ていたと思う <input type="checkbox"/> ③どちらともいえない <input type="checkbox"/> ④あまり出来ていたとは思えない <input type="checkbox"/> ⑤全く出来ていたとは思えない</p> <p>3. 問2.現在は寄付等の協力はしていないが、本当は寄付等を行いたいと思ういる食材等はありますか。もしあれば教えて頂けますと幸いです（こちらは任意回答です）。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>4. 問3.本事業（中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）に協力するようになって変化したものががあれば教えてください（複数回答可）。</p> <p>当てはまるものをすべて選択してください。</p> <p><input type="checkbox"/> ①認定客の増加 <input type="checkbox"/> ②プランディング（企業イメージの向上） <input type="checkbox"/> ③価値の上昇 <input type="checkbox"/> ④売上の増加 <input type="checkbox"/> ⑤来店客（来客）の増加 <input type="checkbox"/> ⑥特になし</p> <p><input type="checkbox"/> その他: _____</p> <p>5. 問4-1.2018年度のフードロス数（約〇トンという形でお答えください）。</p> <p>*本当に廃棄になってしまった予定だった食材の量でお答えください。なお、2018年度にフードバンクへの食品寄贈実績そのものがなかった場合は無回答で結構です。</p> <p>*また、こちらの設問は「<u>食材および食品を扱う業態（業種）の企業様</u>」のみご回答をお願いします。</p> <p>_____</p> <p>6. 問4-2.2019年度のフードロス数（約〇トンという形でお答えください）。</p> <p>*本当に廃棄になってしまった予定だった食材の量でお答えください。なお、2019年度にフードバンクへの食品寄贈実績そのものがなかった場合は無回答で結構です。</p> <p>*また、こちらの設問は「<u>食材および食品を扱う業態（業種）の企業様</u>」のみご回答をお願いします。</p> <p>_____</p> <p>7. 問4-3.2020年度のフードロス数（約〇トンという形でお答えください）。</p> <p>*本当に廃棄になってしまった予定だった食材の量でお答えください。なお、2020年度にフードバンクへの食品寄贈実績そのものがなかった場合は無回答で結構です。</p> <p>*また、こちらの設問は「<u>食材および食品を扱う業態（業種）の企業様</u>」のみご回答をお願いします。</p> <p>_____</p> <p>8. 問4-4.2021年度のフードロス数（約〇トンという形でお答えください）。</p> <p>*本当に廃棄になってしまった予定だった食材の量でお答えください。なお、2021年度にフードバンクへの食品寄贈実績そのものがなかった場合は無回答で結構です。</p> <p>*また、こちらの設問は「<u>食材および食品を扱う業態（業種）の企業様</u>」のみご回答をお願いします。</p> <p>_____</p> <p>9. 問4-5.2022年度のフードロス数（約〇トンという形でお答えください）。</p> <p>*本当に廃棄になってしまった予定だった食材の量でお答えください。なお、2022年度にフードバンクへの食品寄贈実績そのものがなかった場合は無回答で結構です。</p> <p>*また、こちらの設問は「<u>食材および食品を扱う業態（業種）の企業様</u>」のみご回答をお願いします。</p> <p>_____</p> <p>10. 問4-6.こうしたフードロスの削減に関して、本事業（中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）の影響をどうお考えでしょうか。何かございましたら教えていただけますと大変助かります（こちらは任意回答です）。</p> <p>*また、こちらの設問は「<u>食材および食品を扱う業態（業種）の企業様</u>」のみご回答をお願いします。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>次に、貴社と地域とのかかわり（地域への影響等）についておうかがいします。</p> <p>11. 問5-1.貴社はフードバンク等に関する地域住民の理解促進に貢献していると思いますか。</p> <p>1つだけマークしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> ①とても貢献していると思う <input type="checkbox"/> ②少しは貢献していると思う <input type="checkbox"/> ③どちらともいえない <input type="checkbox"/> ④あまり貢献しているとは思えない <input type="checkbox"/> ⑤全く貢献しているとは思えない</p> <p>12. 問5-2.（問5-1の設問に重ねておうかがいします）その理由（貢献しているあるいは貢献していないと思う理由）は何でしょうか（こちらは任意回答です）。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
---

13. 問5-3. 本事業（核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）に協力するようになってからの地域貢献に関する具体的な活動をあれば是非教えてください（こちらは任意回答です）。

---

---

---

次に、貴社についておうかがいします。

14. 問6.貴社の従業員数を教えてください（おおよそで結構です）。

---

15. 問7-1.貴社の業種を教えてください。\*

1つだけマークしてください。

- A:農業,林業
- B:漁業
- C:鉱業,採石業,砂利採取業
- D:建設業
- E:製造業
- F:電気・ガス・熱供給・水道業
- G:情報通信業
- H:運輸業,郵便業
- I:卸売業,小売業
- J:金融業,保険業
- K:不動産業,物品販賣業
- L:学術研究,専門・技術サービス業
- M:宿泊業,飲食サービス業
- N:生活関連サービス業,娯楽業
- O:教育,学習支援業
- P:医療,福祉
- Q:複合サービス事業
- R:サービス業（他に分類されないもの）
- S:公務（他に分類されるものを除く）
- T:分類不能の産業

16. 問7-2.（問7-1で「E:製造業」とご回答いただいた方におうかがいします）E:製造業の詳細は次のうちの何ででしょうか。

1つだけマークしてください。

- E-1:畜産食料品製造業
- E-2:水産食料品製造業
- E-3:野菜缶詰・果実缶詰・農業保存食料品製造業
- E-4:調味料製造業
- E-5:糖類製造業
- E-6:精穀・製粉業
- E-7:パン・菓子製造業
- E-8:動植物油脂製造業
- E-9:その他の食品製造業
- E-10:清涼飲料製造業
- E-11:茶・コーヒー製造業
- E-12:食料品以外の製造業
- その他: \_\_\_\_\_

17. 問7-3.（問7-2で「E9:その他の食品製造業」とご回答いただいた方におうかがいします）E9:その他の食品製造業の詳細は次のうち何ででしょうか。

1つだけマークしてください。

- E9-1:でんぶん製造業
- E9-2:めん類製造業
- E9-3:豆腐・油揚製造業
- E9-4:あん類製造業
- E9-5:冷凍調理食品製造業
- E9-6:そう(惣)菜製造業
- E9-7:すし・弁当・調理パン製造業
- E9-8:レトルト食品製造業
- その他: \_\_\_\_\_

最後に、貴社のことについておうかがいします。

18. 問8.本事業（核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）以外にフードバンク等に関する団体とのお付き合いはありますか。

1つだけマークしてください。

- ①ある
- ②ない

19. 問9.次のいずれかのフードバンク（フードバンクしば、フードバンクかながわ、フードバンクTAMA、フードバンク山梨、フードバンクネット西埼玉）に協力いただき始めた時期は何年頃のことだったでしょうか。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ①2018年以前から
- ②2019年頃から
- ③2020年頃から
- ④2021年頃から
- ⑤2022年頃から

その他: \_\_\_\_\_

20.なぜ、本事業（核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）に協力してくださったのでしょうか。そのきっかけや理由を教えて頂けましたら幸いです（こちらは任意回答です）。

---

---

---

---

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

## 2) 支援団体を対象にした調査(アンケート票)

<p><b>(休眠預金事業:PRF)中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業《利用団体向け調査》</b></p> <p><b>【本調査の目的】</b> 日頃より、フードバンク活動にご尽力を賜りまして、誠にありがとうございます。さて、私どもフードバンクの活動は、公益財団法人ハーブリックリソース財団を資金分配団体とする2020年度の休眠預金等活用事業「中核的フードバンクによる地域包括支援体制」に採択され、助成期間3年間として現在活動に取り組んでおり、2023年度が最終年度となります。 これまでの3年間の活動を評価し、その成果等を報告・情報公開するため、重要なステークホルダーである中核的フードバンクご利用団体様、並びに利用者様へアンケート調査を実施致したく、ご協力はほどよろしくお願ひいたします。</p> <p><b>【個人情報保護】</b> 個人情報の取り扱いについては、弊財団「個人情報保護方針」を遵守いたします。 <a href="https://www.info.public.or.jp/privacy-policy">https://www.info.public.or.jp/privacy-policy</a></p> <p><b>【回答期限】</b> 2023年9月30日(日)までにご協力いただけますと幸いです。</p> <p><b>*必須の質問です</b></p> <p>まずは、活動の開始時期や利用者数についておうかがいします。</p> <p>3. 問2-2.2019年度の利用者人数を教えてください（おおよその人数で結構です。 また2019年度に取組み実績がなければ無回答で結構です）。 ※登録人数ではなく、実際に利用した延べ人数でお答えください。</p> <p>4. 問2-3.2020年度の利用者人数を教えてください（おおよその人数で結構です。 また2020年度に取組み実績がなければ無回答で結構です）。 ※登録人数ではなく、実際に利用した延べ人数でお答えください。</p> <p>5. 問2-4.2021年度の利用者人数を教えてください（おおよその人数で結構です。 また2021年度に取組み実績がなければ無回答で結構です）。 ※登録人数ではなく、実際に利用した延べ人数でお答えください。</p> <p>6. 問2-5.2022年度の利用者人数を教えてください（おおよその人数で結構です。 また2022年度に取組み実績がなければ無回答で結構です）。 ※登録人数ではなく、実際に利用した延べ人数でお答えください。</p> <p>7. 問3-1.現在の活動をこの先も続けていくかと思いますか。*</p> <p>1 つだけマークしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> ①続けていく自信がとてもある <input type="checkbox"/> ②続けていく自信が少しはある <input type="checkbox"/> ③どちらともいえない <input type="checkbox"/> ④続けていく自信があまりない <input type="checkbox"/> ⑤続けていく自信が全くない</p>	<p>1. 問1.現在の活動を始めたのは何年頃のことだったのでしょうか。*</p> <p>1 つだけマークしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 2000年以前 <input type="checkbox"/> 2001年 <input type="checkbox"/> 2002年 <input type="checkbox"/> 2003年 <input type="checkbox"/> 2004年 <input type="checkbox"/> 2005年 <input type="checkbox"/> 2006年 <input type="checkbox"/> 2007年 <input type="checkbox"/> 2008年 <input type="checkbox"/> 2009年 <input type="checkbox"/> 2010年 <input type="checkbox"/> 2011年 <input type="checkbox"/> 2012年 <input type="checkbox"/> 2013年 <input type="checkbox"/> 2014年 <input type="checkbox"/> 2015年 <input type="checkbox"/> 2016年 <input type="checkbox"/> 2017年 <input type="checkbox"/> 2018年 <input type="checkbox"/> 2019年 <input type="checkbox"/> 2020年 <input type="checkbox"/> 2021年 <input type="checkbox"/> 2022年 <input type="checkbox"/> 2023年</p> <p>2. 問2-1.2018年度の利用者人数を教えてください（おおよその人数で結構です。 また2018年度に取組み実績がなければ無回答で結構です）。 ※登録人数ではなく、実際に利用した延べ人数でお答えください。</p> <p>3. 問2-2.2019年度の利用者人数を教えてください（おおよその人数で結構です。 また2019年度に取組み実績がなければ無回答で結構です）。 ※登録人数ではなく、実際に利用した延べ人数でお答えください。</p> <p>4. 問2-3.2020年度の利用者人数を教えてください（おおよその人数で結構です。 また2020年度に取組み実績がなければ無回答で結構です）。 ※登録人数ではなく、実際に利用した延べ人数でお答えください。</p> <p>5. 問2-4.2021年度の利用者人数を教えてください（おおよその人数で結構です。 また2021年度に取組み実績がなければ無回答で結構です）。 ※登録人数ではなく、実際に利用した延べ人数でお答えください。</p> <p>6. 問2-5.2022年度の利用者人数を教えてください（おおよその人数で結構です。 また2022年度に取組み実績がなければ無回答で結構です）。 ※登録人数ではなく、実際に利用した延べ人数でお答えください。</p> <p>7. 問3-1.現在の活動をこの先も続けていくかと思いますか。*</p> <p>1 つだけマークしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> ①とてもある <input type="checkbox"/> ②少しはある <input type="checkbox"/> ③どちらともいえない <input type="checkbox"/> ④あまりない <input type="checkbox"/> ⑤全くない</p> <p>8. 問3-2.現在の活動を続けていくにあたって不足しているものを選択してください。* (複数回答可)。</p> <p>当てはまるものをすべて選択してください。</p> <p><input type="checkbox"/> ①人材 <input type="checkbox"/> ②倉庫 <input type="checkbox"/> ③冷蔵・冷凍庫 <input type="checkbox"/> ④資金 <input type="checkbox"/> ⑤協力社・者 <input type="checkbox"/> その他: _____</p> <p>9. 問4-1.現在の取組みについて、利用者から感謝されている・必要とされている・実感はありますか。 1 つだけマークしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> ①とてもある <input type="checkbox"/> ②少しはある <input type="checkbox"/> ③どちらともいえない <input type="checkbox"/> ④あまりない <input type="checkbox"/> ⑤全くない</p> <p>10. 問4-2.（問4-1で「とてもある」もしくは「少しはある」と回答された方におうかがいします）もし可能でしたら感謝されている・必要とされていると感じた具体的なエピソードを教えてください（こちらは任意回答です）。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
--	--

11. 問5-1.配布すべき食料品の保管・配送方法は整備されているでしょうか。整備されているものを教えてください（複数選択可）。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ①冷凍・冷蔵庫の設置
- ②物流会社との協働
- ③自前で車両・ドライバーを設置
- その他: \_\_\_\_\_

12. 問5-2.（問5-1の設問に重ねておうかがいします）本事業（中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）を通して新たに整備されたものはどれでしょか。当てはまるもの全てを教えてください（複数回答可）。

当てはまるものをすべて選択してください。

- ①冷凍・冷蔵庫
- ②物流会社との協働
- ③自前で車両・ドライバーを設置
- その他: \_\_\_\_\_

次に、受益者（利用者）への食品・情報の供給状況。あるいは支援の状況についておうかがいします。

13. 問6-1.現在の取組みを通して、受益者が必要としている食品を供給できていると思いませんか。

1つだけマークしてください。

- ①十分に供給できていると思う
- ②少しは共有できていると思う
- ③どちらともいえない
- ④あまり供給できていないと思う
- ⑤全く供給できていないと思う

14. 問6-2.（問6-1の設問に重ねておうかがいします）本事業（中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）に参加する前はどうだったでしょうか。現在の取組みを通して、受益者が必要としている食品を供給できていたと思いませんか。

1つだけマークしてください。

- ①十分に供給できていたと思う
- ②少しは共有できていたと思う
- ③どちらともいえない
- ④あまり供給できていなかったと思う
- ⑤全く供給できていなかったと思う

15. 問6-3.現在の取組みを通して、受益者に有益な情報を提供できていると思いませんか。

1つだけマークしてください。

- ①有益な情報を提供できていると、とても思う
- ②有益な情報を提供できていると、少しは思う
- ③どちらともいえない
- ④有益な情報を提供できていると、あまり思わない
- ⑤有益な情報を提供できていると、全く思わない

16. 問6-4.（問6-3の設問に重ねておうかがいします）本事業（中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）に参加する前はどうだったでしょうか。現在の取組みを通して、受益者に有益な情報を提供できていると思いませんか。

1つだけマークしてください。

- ①有益な情報を提供できていたと、とても思う
- ②有益な情報を提供できていたと、少しは思う
- ③どちらともいえない
- ④有益な情報を提供できていたと、あまり思わない
- ⑤有益な情報を提供できていたと、全く思わない

17. 問6-5.（問6-3で「とても思おう」もしくは「少しは思う」と回答された方におうかがいします）それは何でしょうか、どのような情報でしょうか（こちらは任意回答です）。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

18. 問7-1.これまでに利用者から相談を受けたことがありますか。\*

1つだけマークしてください。

- ①ある
- ②ない

19. 問7-2.これまでに要支援者を発見した経験はありますか。\*

1つだけマークしてください。

- ①ある
- ②ない

20. 問7-3.（問7-1あるいは問7-2について「ある」と回答された方にうかがいます）必要に応じて要支援者を適切な機関等へつなげることができましたか。

1つだけマークしてください。

- ①適切な機関等につなげたことがある
- ②適切な機関につなげたことはない
- ③そもそもそのような状況（他機関につなぐ必要が生じるような状況）になったことがない
- その他: \_\_\_\_\_

21. 問7-4.上記のような支援（適切な機関等へつなぐような支援）のために公的・機関等との連携関係が構築されていると思いますか。

1つだけマークしてください。

- ①十分に構築されていると思う
- ②少しは構築されていると思う
- ③どちらともいえない
- ④あまり構築されているとは思えない
- ⑤全く構築されているとは思わない

22. 問7-5.（問7-4の設問に重ねておうかがいします）本事業（中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業）に参加する前はどうだったでしょうか。上記のような支援（適切な機関等へつなぐような支援）のために公的機関等との連携関係が構築されていたと思いますか。

1つだけマークしてください。

- ①十分に構築されていたと思う
- ②少しは構築されていたと思う
- ③どちらともいえない
- ④あまり構築されていたとは思えない
- ⑤全く構築されていたとは思わない

最後に、あなた自身のことについておうかがいします。

23. 問8-1.現在の取組みは個人で行っているのでしょうか。それとも団体で行っているのでしょうか。

1つだけマークしてください。

- ①個人で行っている
- ②団体で行っている
- その他: \_\_\_\_\_

24. 問8-2. (問8-1の設問に重ねておうかがいします) 主な活動内容を教えてください。\*  
ください (複数回答可)。

1つだけマークしてください。

- ①子ども食堂
- ②フードバンク
- ③コードバンタリー
- ④その他: \_\_\_\_\_

25. 問9.あなたの年齢を教えてください。\*

1つだけマークしてください。

- ①20代
- ②30代
- ③40代
- ④50代
- ⑤60代
- ⑥70代
- ⑦80代以上

26. 問10.もし宜しければ現在の取組みをはじめたきっかけや動機を教えてください (こちらは任意回答です)。

---

---

---

### 3) 中核的フードバンク(実行団体)を対象にした調査(アンケート票)

#### 中核的FBによる地域包括支援体制事業: 非資金的支援に関するアンケート調査

本アンケート調査は本事業(中核的FBによる地域包括支援体制事業:非資金的支援)における非資金的支援(資金分配団体から皆様への支援)に関して事後評価をするために実施を致します。本アンケートへの回答内容がどのようなものでも皆様への不利益はないことをお約束致します。実態とともに率直なご意見をご回答頂けましたら幸いです。皆様、大変お忙しいところ恐縮ではございますが、回答へのご協力をお願い申し上げます。

 アカウントを切り替える 

\*必須の質問です

メールアドレス \*

メールアドレス

★まずは、貴団体について伺います。

問0. 次の選択肢のなかから貴団体をお選びください。\*

- ①認定NPO法人フードバンク山梨
- ②企業組合労協船橋事業団フードバンクちば
- ③NPO法人フードバンク西埼玉
- ④NPO法人フードバンクTAMA
- ⑤公益社団法人フードバンクかながわ

★次に、休眠預金活用事業の3年間で得られた貴団体の成果(変化)について伺います。

問1-1. 2018年度の貴団体としての食品調達量についてご回答ください。\*

回答を入力

問1-2. 2019年度の貴団体としての食品調達量についてご回答ください。\*

回答を入力

問1-3. 2020年度の貴団体としての食品調達量についてご回答ください。\*

回答を入力

問1-4. 2021年度の貴団体としての食品調達量についてご回答ください。\*

回答を入力

問1-5. 2022年度の貴団体としての食品調達量についてご回答ください。\*

回答を入力

問1-6. 現時点で十分な食品調達量があるとお考えでしょうか。次の選択肢から当  
てはまるものを1つお選びください。

①十分にある  
 ②あるにはあるが十分とは言えない  
 ③やや不足している  
 ④全く不足している

問2-1. 2018年度の貴団体としての食品配布量（支援量）についてご回答ください。

回答を入力

問2-2. 2019年度の貴団体としての食品配布量（支援量）についてご回答ください。

回答を入力

問2-3. 2020年度の貴団体としての食品配布量（支援量）についてご回答ください。

回答を入力

問4-2. 2019年度の貴団体としての寄付者数についてご回答ください。\*

回答を入力

問4-3. 2020年度の貴団体としての寄付者数についてご回答ください。\*

回答を入力

問4-4. 2021年度の貴団体としての寄付者数についてご回答ください。\*

回答を入力

問4-5. 2022年度の貴団体としての寄付者数についてご回答ください。\*

回答を入力

問4-6. 現時点で十分な寄付者数があるとお考えでしょうか。次の選択肢から当  
てはまるものを1つお選びください。

①十分にある  
 ②あるにはあるが十分とは言えない  
 ③やや不足している  
 ④全く不足している

問5-1. 2018年度の貴団体としての寄付金額についてご回答ください。\*

回答を入力

問2-4. 2021年度の貴団体としての食品配布量（支援量）についてご回答ください。\*

回答を入力

問2-5. 2022年度の貴団体としての食品配布量（支援量）についてご回答ください。\*

回答を入力

問2-6. 現時点で十分な食品配布量（支援量）があるとお考えでしょうか。次の選  
択肢から当てはまるものを1つお選びください。

①十分にある  
 ②あるにはあるが十分とは言えない  
 ③やや不足している  
 ④全く不足している

問3. 休眠預金活用事業の3年間で、調達した食料や配布した食品のバリエーションに変化はあったでしょうか。もし何らかの変化があったとすれば、それをご記入ください（例えば冷蔵・冷凍食品を扱えるようになったなど、どのようなことでも結構ですので、何でもご記入頂けますと助かります）。

回答を入力

問4-1. 2018年度の貴団体としての寄付者数についてご回答ください。\*

回答を入力

問5-2. 2019年度の貴団体としての寄付金額についてご回答ください。\*

回答を入力

問5-3. 2020年度の貴団体としての寄付金額についてご回答ください。\*

回答を入力

問5-4. 2021年度の貴団体としての寄付金額についてご回答ください。\*

回答を入力

問5-5. 2022年度の貴団体としての寄付金額についてご回答ください。\*

回答を入力

問5-6. 現時点で十分な寄付金額があるとお考えでしょうか。次の選択肢から当  
てはまるものを1つお選びください。

①十分にある  
 ②あるにはあるが十分とは言えない  
 ③やや不足している  
 ④全く不足している

問6. 寄付金等も含めて、貴団体の事業運営に必要な収入が十分に確保できているとお考えでしょうか。次の選択肢から当てはまるもの1つをお選びください。

- ①十分に確保されている
- ②十分とは言えないが確保されている
- ③やや不足している
- ④全く不足している

★次に、貴団体と協力企業との関係について伺います。

問7-1. 2018年度の貴団体としての食品等寄贈企業数についてご回答ください。\*

回答を入力

問7-2. 2019年度の貴団体としての食品等寄贈企業数についてご回答ください。\*

回答を入力

問7-3. 2020年度の貴団体としての食品等寄贈企業数についてご回答ください。\*

回答を入力

問7-4. 2021年度の貴団体としての食品等寄贈企業数についてご回答ください。\*

回答を入力

問7-5. 2022年度の貴団体としての食品等寄贈企業数についてご回答ください。\*

回答を入力

問7-6. 現時点での十分な食品等寄贈企業数があるとお考えでしょうか。次の選択肢から当てはまるもの1つをお選びください。

- ①十分にある
- ②あるはあるが十分とは言えない
- ③やや不足している
- ④全く不足している

問8-1. 2018年度の貴団体としての食品等寄贈数についてご回答ください。\*

回答を入力

問8-2. 2019年度の貴団体としての食品等寄贈数についてご回答ください。\*

回答を入力

問8-3. 2020年度の貴団体としての食品等寄贈数についてご回答ください。\*

回答を入力

問8-4. 2021年度の貴団体としての食品等寄贈数についてご回答ください。\*

回答を入力

問8-5. 2022年度の貴団体としての食品等寄贈数についてご回答ください。\*

回答を入力

問8-6. 現時点での十分な食品等寄贈数があるとお考えでしょうか。次の選択肢から当てはまるもの1つをお選びください。

- ①十分にある
- ②あるはあるが十分とは言えない
- ③やや不足している
- ④全く不足している

問9. 休眠預金活用事業の3年間で、寄贈して頂いた食品等のバリエーションに変化はあったでしょうか。もし何らかの変化があったとすれば、それをご記入ください（例えばこれまでに寄贈して頂いたことのなかったXXなどを寄贈して頂けるようになったなど、どのようなことでも結構ですので、何でもご記入頂けますと助かります）。

回答を入力

★最後に、資金分配団体からの各種支援について伺います。

問10. フードバンク活動に精通した専門家の選定・派遣（ミーティングや現地訪問を通じたアドバイスなど）は貴団体の役に立ったでしょうか。次の選択肢のなかから当てはまるもの1つをお選びください。

- ①とても役に立った
- ②少しは役に立った
- ③どちらともいえない
- ④あまり役に立たなかった
- ⑤全く役に立たなかった

問11. コンソーシアム内での情報共有・連携強化（実行団体間等の定期会合や先行事例の視察等）は貴団体の役に立ったでしょうか。次の選択肢のなかから当てはまるもの1つをお選びください。

- ①とても役に立った
- ②少しは役に立った
- ③どちらともいえない
- ④あまり役に立たなかった
- ⑤全く役に立たなかった

問12. 中核的フードバンクの財政基盤強化支援（ファンドレイジングのアドバイス等）は貴団体の役に立ったでしょうか。次の選択肢のなかから当てはまるもの1つをお選びください。

- ①とても役に立った
- ②少しは役に立った
- ③どちらともいえない
- ④あまり役に立たなかった
- ⑤全く役に立たなかった

 [編集権限をリクエスト](#)

問13. フードバンクに賛同・協力する企業を増やすための支援（JANPIAと連携\*した食品寄贈企業の開拓やGive Oneを活用した寄付の協力企業・個人の開拓）は貴団体の役にたったでしょうか。次の選択肢のなかから当てはまるもの1つをお選びください。

- ①とても役にたった
- ②少しは役にたった
- ③どちらともいえない
- ④あまり役に立たなかった
- ⑤全く役に立たなかった

問14. 評価伴走支援（ロジックモデル作成や評価調査のアドバイス、評価専門家\*の紹介等）は貴団体の役にたったでしょうか。次の選択肢のなかから当てはまるもの1つをお選びください。

- ①とても役にたった
- ②少しは役にたった
- ③どちらともいえない
- ④あまり役に立たなかった
- ⑤全く役に立たなかった

問15. 上記以外で皆様のお役にたてた支援があれば教えてください。

回答を入力

#### 4)利用者を対象にした調査(アンケート票)

○○○○利用者様アンケート														
<p><b>【本調査の目的】</b> 本調査は、○○○○が皆様にどのような影響（負担）があるのかを明らかにすることを目的にしています。本調査の結果は今後、○○○○の取組みをより発展させるために使われていただきます。また、本調査の結果をまとめ、報告書を作成したり、報告会の機会を設けたりすることで、この取組みを様々な人々に知っていただき、この取組みを応援してくれる人たちを増やしたいと考えています。皆様のご協力をいただけましたら幸いです。</p>														
<p>問1. ○○○○を利用はじめたのはいつ頃ですか。 <input style="width: 100px; height: 15px; border: 1px solid black; margin-right: 10px;" type="text"/> 年 <input style="width: 100px; height: 15px; border: 1px solid black; margin-right: 10px;" type="text"/> 月</p>														
<p>問2. 生活のしやすさを 10点満点で評価するとして、何点くらいになるでしょうか。○○○○利用前後の状況についてそれぞれ当てはまる数字(点数)を1つずつに○をしてください。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用前</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用後(現在)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">0・1・2・3・4・5・6・7・8・9・10 点</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">0・1・2・3・4・5・6・7・8・9・10 点</td> </tr> </table>										○○○○利用前	○○○○利用後(現在)	0・1・2・3・4・5・6・7・8・9・10 点	0・1・2・3・4・5・6・7・8・9・10 点	
○○○○利用前	○○○○利用後(現在)													
0・1・2・3・4・5・6・7・8・9・10 点	0・1・2・3・4・5・6・7・8・9・10 点													
<p>問3. 安心した生活を送っているでしょうか。○○○○利用前後についてそれぞれ当てはまるもの1つずつに○をしてください。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用前</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用後(現在)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①とても 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ②少しは 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ③あまり 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ④全く 安心した生 活が送れて いた         </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①とても 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ②少しは 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ③あまり 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ④全く 安心した生 活が送れて いた         </td> </tr> </table>										○○○○利用前	○○○○利用後(現在)	<input type="radio"/> ①とても 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ②少しは 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ③あまり 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ④全く 安心した生 活が送れて いた	<input type="radio"/> ①とても 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ②少しは 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ③あまり 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ④全く 安心した生 活が送れて いた	
○○○○利用前	○○○○利用後(現在)													
<input type="radio"/> ①とても 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ②少しは 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ③あまり 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ④全く 安心した生 活が送れて いた	<input type="radio"/> ①とても 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ②少しは 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ③あまり 安心した生 活が送れて いた <input type="radio"/> ④全く 安心した生 活が送れて いた													
<p>問4. ○○○○を利用はじめて、食事の量の幅は広がりましたか。 かく</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用前</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用後(現在)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①広がった <input type="radio"/> ②広がらない         </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①広がった <input type="radio"/> ②広がらない         </td> </tr> </table> <p>問5. (問4で広がったとお答えになった方に)お聞きします!それは何でしょうか(どのような食材でどううか)。下記の自由記述欄にお書きください(こちらは任意のご回答です)</p> <p style="text-align: center;">L</p>										○○○○利用前	○○○○利用後(現在)	<input type="radio"/> ①広がった <input type="radio"/> ②広がらない	<input type="radio"/> ①広がった <input type="radio"/> ②広がらない	
○○○○利用前	○○○○利用後(現在)													
<input type="radio"/> ①広がった <input type="radio"/> ②広がらない	<input type="radio"/> ①広がった <input type="radio"/> ②広がらない													
<p>問6. 食事は1日3食食べられているでしょうか。○○○○利用前後についてそれぞれ当てはまるもの1つずつに○をしてください。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用前</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用後(現在)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ②3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ③あえて3食食 んでいた         </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ②3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ③あえて3食食 んでいた         </td> </tr> </table>										○○○○利用前	○○○○利用後(現在)	<input type="radio"/> ①3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ②3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ③あえて3食食 んでいた	<input type="radio"/> ①3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ②3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ③あえて3食食 んでいた	
○○○○利用前	○○○○利用後(現在)													
<input type="radio"/> ①3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ②3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ③あえて3食食 んでいた	<input type="radio"/> ①3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ②3食食べられ ていなかった <input type="radio"/> ③あえて3食食 んでいた													
<p>問7. おやつ等間食を食べることはありますか。○○○○利用前後についてそれぞれ当てはまるもの1つずつに○をしてください。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用前</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用後</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①よく 食べていた <input type="radio"/> ②少しは 食べていた <input type="radio"/> ③あまり 食べられ ていなかった <input type="radio"/> ④全く 食べてい ない         </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①よく 食べていた <input type="radio"/> ②少しは 食べていた <input type="radio"/> ③あまり 食べられ ていなかった <input type="radio"/> ④全く 食べてい ない         </td> </tr> </table>										○○○○利用前	○○○○利用後	<input type="radio"/> ①よく 食べていた <input type="radio"/> ②少しは 食べていた <input type="radio"/> ③あまり 食べられ ていなかった <input type="radio"/> ④全く 食べてい ない	<input type="radio"/> ①よく 食べていた <input type="radio"/> ②少しは 食べていた <input type="radio"/> ③あまり 食べられ ていなかった <input type="radio"/> ④全く 食べてい ない	
○○○○利用前	○○○○利用後													
<input type="radio"/> ①よく 食べていた <input type="radio"/> ②少しは 食べていた <input type="radio"/> ③あまり 食べられ ていなかった <input type="radio"/> ④全く 食べてい ない	<input type="radio"/> ①よく 食べていた <input type="radio"/> ②少しは 食べていた <input type="radio"/> ③あまり 食べられ ていなかった <input type="radio"/> ④全く 食べてい ない													
<p>問8. ○○○○を利用はじめて、食事の量は増えました。当てはまるもの1つに○をしてください。</p> <p>かく</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">①とても増えた <input type="radio"/> ②少しは増えた <input type="radio"/> ③変わらない <input type="radio"/> ④少し減った <input type="radio"/> ⑤とても減った</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;"></td> </tr> </table> <p>問9. (問8でとても増えた・少しは増えたとお答えになった方に)お聞きします!具体的には何がどう増えたのでしょうか?下記の自由記述欄にお書きください(こちらは任意のご回答です)。</p> <p style="text-align: center;">L</p>										①とても増えた <input type="radio"/> ②少しは増えた <input type="radio"/> ③変わらない <input type="radio"/> ④少し減った <input type="radio"/> ⑤とても減った				
①とても増えた <input type="radio"/> ②少しは増えた <input type="radio"/> ③変わらない <input type="radio"/> ④少し減った <input type="radio"/> ⑤とても減った														
<p>問10. 学用品や洋服等生活費全般に困難はありますか。○○○○利用前後の状況についてそれぞれ当てはまるもの1つずつに○をしてください。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用前</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用後(現在)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①全く 困難はなか った <input type="radio"/> ②あまり 困難はなか った <input type="radio"/> ③少しは 困難があつ た <input type="radio"/> ④とても 困難があつ た         </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①全く 困難はない <input type="radio"/> ②あまり 困難はない <input type="radio"/> ③少しは 困難がある <input type="radio"/> ④とても 困難がある         </td> </tr> </table>										○○○○利用前	○○○○利用後(現在)	<input type="radio"/> ①全く 困難はなか った <input type="radio"/> ②あまり 困難はなか った <input type="radio"/> ③少しは 困難があつ た <input type="radio"/> ④とても 困難があつ た	<input type="radio"/> ①全く 困難はない <input type="radio"/> ②あまり 困難はない <input type="radio"/> ③少しは 困難がある <input type="radio"/> ④とても 困難がある	
○○○○利用前	○○○○利用後(現在)													
<input type="radio"/> ①全く 困難はなか った <input type="radio"/> ②あまり 困難はなか った <input type="radio"/> ③少しは 困難があつ た <input type="radio"/> ④とても 困難があつ た	<input type="radio"/> ①全く 困難はない <input type="radio"/> ②あまり 困難はない <input type="radio"/> ③少しは 困難がある <input type="radio"/> ④とても 困難がある													
<p>問11. 孤独を感じることはありますか。○○○○利用前後の状況についてそれぞれ当てはまるもの1つずつに○をしてください。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用前</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">○○○○利用後(現在)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①全く 孤独感はな かった <input type="radio"/> ②あまり 孤独感はな かった <input type="radio"/> ③少しは 孤独感があ つた <input type="radio"/> ④とても 孤独感があ つた         </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;"> <input type="radio"/> ①全く 孤独感はな い <input type="radio"/> ②あまり 孤独感はな い <input type="radio"/> ③少しは 孤独感があ る <input type="radio"/> ④とても 孤独感があ る         </td> </tr> </table>										○○○○利用前	○○○○利用後(現在)	<input type="radio"/> ①全く 孤独感はな かった <input type="radio"/> ②あまり 孤独感はな かった <input type="radio"/> ③少しは 孤独感があ つた <input type="radio"/> ④とても 孤独感があ つた	<input type="radio"/> ①全く 孤独感はな い <input type="radio"/> ②あまり 孤独感はな い <input type="radio"/> ③少しは 孤独感があ る <input type="radio"/> ④とても 孤独感があ る	
○○○○利用前	○○○○利用後(現在)													
<input type="radio"/> ①全く 孤独感はな かった <input type="radio"/> ②あまり 孤独感はな かった <input type="radio"/> ③少しは 孤独感があ つた <input type="radio"/> ④とても 孤独感があ つた	<input type="radio"/> ①全く 孤独感はな い <input type="radio"/> ②あまり 孤独感はな い <input type="radio"/> ③少しは 孤独感があ る <input type="radio"/> ④とても 孤独感があ る													
<p>問12. ○○○○に頼るかのスタッフはいますか。 かく</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">①いる <input type="radio"/> ②いない</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;"></td> </tr> </table>										①いる <input type="radio"/> ②いない				
①いる <input type="radio"/> ②いない														
<p>問13. ○○○○を通じてあなたの団ごとをキャッチしてもらつことがありますか。 かく</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">①ある <input type="radio"/> ②ない</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;"></td> </tr> </table>										①ある <input type="radio"/> ②ない				
①ある <input type="radio"/> ②ない														
<p>問14. あるとすればそれはどのようなことだったでしょうか。下記の自由記述欄にお書き下さい(こちらは任意回答です)。</p> <p style="text-align: center;">L</p>														
<p>問15. ○○○○を通じて次のあなたにとって有益かもしれない情報を得たことはありますか。該当するもの全てに○をしてください。</p> <p>かく</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">①授業等の情報提供 <input type="radio"/> ②その他(</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">)</td> </tr> </table>										①授業等の情報提供 <input type="radio"/> ②その他(	)			
①授業等の情報提供 <input type="radio"/> ②その他(	)													
<p>問16. お子様の人数を教えてください。 かく</p>														
<p>問17. お子様の年齢を教えてください。 かく</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center; padding: 5px;">男・男児 <input type="radio"/> ①</td> <td style="width: 20%; text-align: center; padding: 5px;">次男・次女 <input type="radio"/> ②</td> <td style="width: 20%; text-align: center; padding: 5px;">三男・三女 <input type="radio"/> ③</td> <td style="width: 20%; text-align: center; padding: 5px;">四男・四女 <input type="radio"/> ④</td> <td style="width: 20%; text-align: center; padding: 5px;">五男・五女 <input type="radio"/> ⑤</td> </tr> </table>										男・男児 <input type="radio"/> ①	次男・次女 <input type="radio"/> ②	三男・三女 <input type="radio"/> ③	四男・四女 <input type="radio"/> ④	五男・五女 <input type="radio"/> ⑤
男・男児 <input type="radio"/> ①	次男・次女 <input type="radio"/> ②	三男・三女 <input type="radio"/> ③	四男・四女 <input type="radio"/> ④	五男・五女 <input type="radio"/> ⑤										
<p>問18. あなたの年齢を教えてください。 かく</p>														
<p>問19. 次のうち、あなたの該当するものがあるでしょうか。当てはまるもの全てに○をつけてください。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center; padding: 5px;">①ひとり親 <input type="radio"/> ②現在は無職 <input type="radio"/> ③児童扶養手当を受給 <input type="radio"/> ④生活保護を受給</td> <td style="width: 25%; text-align: center; padding: 5px;">)</td> </tr> </table>										①ひとり親 <input type="radio"/> ②現在は無職 <input type="radio"/> ③児童扶養手当を受給 <input type="radio"/> ④生活保護を受給	)			
①ひとり親 <input type="radio"/> ②現在は無職 <input type="radio"/> ③児童扶養手当を受給 <input type="radio"/> ④生活保護を受給	)													
<p>問20. あなたの年収はどのくらいでしょうか。おおよそで結構ですので下記にご記入ください。</p> <p>かく</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">約 <input style="width: 100px; height: 15px; border: 1px solid black; margin-right: 10px;" type="text"/> 万円</td> <td style="width: 50%; text-align: center; padding: 5px;">)</td> </tr> </table>										約 <input style="width: 100px; height: 15px; border: 1px solid black; margin-right: 10px;" type="text"/> 万円	)			
約 <input style="width: 100px; height: 15px; border: 1px solid black; margin-right: 10px;" type="text"/> 万円	)													
<p>★★本調査は以上です。ご協力ありがとうございました★★</p>														

#### 5) コンソーシアム成果報告会参加者を対象にした調査(アンケート票)

アンケート\_成果報告会『食支援を支えるインフラ「中核的フードバンク」の可能性を探る』

本日はお忙しい中、パブリックリソース財団主催・休眠預金等活用事業 中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業の成果報告会『食支援を支えるインフラ「中核的フードバンク」の可能性を探る』にご参加いただきまして、ありがとうございました。大変恐縮ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

回答を入力

Q.3 所属団体・所属機関名 \*

回答を入力

Q.4 本成果報告会に参加されたきっかけを教えてください。 \*

回答を入力

Q.5 現在、食支援活動（フードバンク・子ども食堂・フードバンチャー等）に \*  
取り組んでおられますか？

はい

いいえ

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 公益財団法人パブリックリソース財団 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

### 6) 中核的フーバンクアセスメントシート

#### アセスメントシート 中核的フードバンクにもとめられること

团体名：

实施日： 年 月 日

実施日： 年 月 日		評価						コメント	優先度	
カテゴリー	チェック項目	備考						1:出来ていない 2:おぼり出来ていない 3:おぼつかない 4:出来ている 5:とても出来ている		
ミッション	中核フードバンク団体としての活動理念、目的は明確になっているか	中核フードバンク団体の設立元になっているフードバンク団体との差別化がされているか						<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
ビジョン	中核フードバンク団体として実現したい社会のあり方、団体が理想とする社会のイメージは明確であるか	中核フードバンク団体の設立元になっているフードバンク団体との差別化がされているか						<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
計画	3年程度の事業計画 (数項目目等)	中核フードバンク団体としての活動アリバの範囲は明確であるか 活動アリバにおいて支援が必要な面接者の階層的な人數 食料支援活動に必要な寄附食品の量は明確必要であるか						<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
		活動アリバの中に、どれくらいの頻度(地域フードバンク、パートナー団体)が必要明確になっているか						<input checked="" type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
事業内容	食品企業の網羅 自団体ではなく加盟している団体(地域フードバンク、パートナー団体等)へ食品を提供するための企業網羅	中核フードバンク団体の設立元になっているフードバンクを適用するためではなく、支援対象団体(地域フードバンク、パートナー団体等)へ食品を提供するための企業網羅であることを明確にしているか 運動アリバフードバンク団体を代表して、活動アリバ内の比較的大な企業との連携がされているか 企業向けの資料は作成しているか						<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
	食品企業から差別化された食品の地域フードバンクやパートナー団体への分配	マーチングリストや食品差別化の実績調整に係る体制						<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
	ネットワークに加盟する地域フードバンク団体やパートナー団体等への情報発信	マーチングリストや食品差別化の実績調整に係る体制						<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
	自治体への政策提言	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	政策提言に必要な調査研究	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	政策提言に必要な議論	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	中核フードバンク団体としてのホームページの運用	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	中核フードバンク団体としてのSNSの運用	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	地域フードバンク等と連携したキックオフ活動	フードドライブ、夏休み・冬休みの集中的な食料支援プロジェクト						<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
	新設フードバンクに対する立ち上げ支援	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
人具体制	地域フードバンクの運営実績	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	中核フードバンク団体の業務を担当する常勤の有給スタッフ人数	企業・行政との連携、地域フードバンクとの連携調整、広報、会計、ファンドレイジングなど						<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
	企業間連	<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
ノウハウ	販路の受入れ、保管、配布	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	行政との連携	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	新規団体の立ち上げ支援	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
ツール	販路の地域フードバンクへの運営支援	会計、ファンドレイジング、企業対応、行政対応、フードバンクの運営支援								
	トレーニング	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	在庫管理システム	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
地域フードバンク等とのネットワーク	ネットワーク等への加盟基準は明確になっているか	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	その他 (実質的に団体側に聞くのではなく、想いこは難しいが中核FBCに必要な項目)	中核フードバンク団体の員員に対する責任感はあるか (実質的に地域フードバンク団体等を支援している感じでいいでいい(マイドがあるが))						<input type="radio"/> 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5		
	加盟する地域FBCとの協定書、合意書等は締結しているか	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
ハード	地域フードバンク現在の立ち位置を要しているか	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	食品の搬送条件や保管方法、便通、責任の所在などに関するルール	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	運送手数料	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
直営	直営	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	配達事務	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
	冷蔵庫	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								
事業体所	事業計画との整合性が重要	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5								

## 7) 中核的フードバンク伴走支援計画

### 支援計画書

団体名：

作成日： 年 月 日

カテゴリー	支援項目	支援内容												2023年 1月 2月 3月	
		2021年			2022年			2023年							
10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
ミッション															
ビジョン															
計画															
事業内容															
人員体制															
ノウハウ															
ツール															
地域のフードバンクとのネットワーク (複数の加盟団体)															
ハード															

# 2020年度 休眠預金活用事業 中核的フードバンクによる地域包括支援体制 事業評価チーム

(50音順)

鎌田淳（公益財団法人パブリックリソース財団）

鳴原佳奈（公益財団法人パブリックリソース財団）

新藤健太（日本社会事業大学社会福祉学部）

## 執筆分担

1:新藤健太、鎌田淳、鳴原佳奈

2:新藤健太

3:鎌田淳、鳴原佳奈、新藤健太

4:新藤健太

5:新藤健太

6:鎌田淳、鳴原佳奈、新藤健太

7:新藤健太、鎌田淳、鳴原佳奈

8:鎌田淳、鳴原佳奈

9:鎌田淳、鳴原佳奈

10:新藤健太、鎌田淳、鳴原佳奈

11:鎌田淳、鳴原佳奈

12:鎌田淳、鳴原佳奈

13:新藤健太、鎌田淳、鳴原佳奈

## 編集者

新藤健太、鎌田淳、鳴原佳奈

---

**2020年度 休眠預金活用事業  
中核的フードバンクによる地域包括支援体制 事後評価報告書**

**発行日:2024年3月31日**

**発行者:公益財団法人パブリックリソース財団**

**〒104-0043 東京都中央区湊2丁目16-25 ライオンズマンション鉄砲洲第3 202号**

**TEL:03-5540-6256 FAX:03-5540-1030**

**E-mail:center@public.or.jp**

---